

【表紙】

【提出書類】	有価証券報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条第 1 項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年 6 月26日
【事業年度】	第73期(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
【会社名】	テクニカル電子株式会社
【英訳名】	TECHNICAL ELECTRON Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 嶋 田 浩 司
【本店の所在の場所】	東京都大田区大森西一丁目 9 番12号
【電話番号】	03(3762)5151(代表)
【事務連絡者氏名】	経理部長 八 子 将
【最寄りの連絡場所】	東京都大田区大森西一丁目 9 番12号
【電話番号】	03(3762)5152
【事務連絡者氏名】	経理部長 八 子 将
【縦覧に供する場所】	テクニカル電子株式会社福岡支社 (福岡市南区那の川一丁目14番 1 号) 株式会社大阪証券取引所 (大阪市中央区北浜一丁目 8 番16号)

第一部 【企業情報】

第 1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

(1) 連結経営指標等

回次	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (千円)	6,375,236	5,761,011	5,993,330	5,557,104	5,636,595
経常利益 (千円)	79,845	122,250	390,886	521,724	398,332
当期純利益 (千円)	14,177	124,381	236,100	484,833	204,757
包括利益 (千円)	—	—	221,329	472,351	311,457
純資産額 (千円)	1,192,482	1,349,252	1,570,581	2,042,821	2,249,789
総資産額 (千円)	9,282,809	8,725,225	10,538,344	10,591,724	9,072,135
1 株当たり純資産額 (円)	148.57	168.11	195.68	254.55	280.37
1 株当たり当期純利益 (円)	1.77	15.50	29.42	60.41	25.52
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	12.8	15.5	14.9	19.3	24.8
自己資本利益率 (%)	1.1	9.8	16.2	26.8	9.5
株価収益率 (倍)	37.3	7.4	4.0	3.3	8.6
営業活動による キャッシュ・フロー (千円)	248,654	784,989	863,134	972,702	371,985
投資活動による キャッシュ・フロー (千円)	276,599	65,822	1,341,419	222,857	83,091
財務活動による キャッシュ・フロー (千円)	840,947	511,263	1,039,059	6,796	1,834,565
現金及び現金同等物 の期末残高 (千円)	792,917	1,010,587	1,567,240	2,297,810	800,430
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数) (名)	292 (45)	315 (33)	320 (57)	242 (53)	226 (47)

(注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。

2 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

3 第72期より、従来、営業外収益に計上しておりました「作業くず売却益」につきましては、金額的な重要性が増してきたことから、「売上高」に計上しており、第71期の関連する主要な経営指標については遡及処理後の数値を記載しております。

(2) 提出会社の経営指標等

回次	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期
決算年月	平成21年 3 月	平成22年 3 月	平成23年 3 月	平成24年 3 月	平成25年 3 月
売上高 (千円)	5,238,135	4,791,547	4,809,550	4,666,837	4,747,745
経常利益 (千円)	142,340	218,645	213,744	576,207	456,427
当期純利益 (千円)	96,476	203,395	170,424	508,246	271,729
資本金 (千円)	1,052,850	1,052,850	1,052,850	1,052,850	1,052,850
発行済株式総数 (株)	8,038,100	8,038,100	8,038,100	8,038,100	8,038,100
純資産額 (千円)	763,703	968,845	1,139,878	1,683,144	1,851,064
総資産額 (千円)	7,688,906	7,315,243	9,113,622	9,194,655	7,586,417
1 株当たり純資産額 (円)	95.15	120.71	142.02	209.73	230.69
1 株当たり配当額 (内 1 株当たり中間配当額) (円)	— (—)	— (—)	— (—)	8 (—)	11 (5)
1 株当たり当期純利益 (円)	12.02	25.34	21.23	63.33	33.86
潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益 (円)	—	—	—	—	—
自己資本比率 (%)	9.9	13.2	12.5	18.3	24.4
自己資本利益率 (%)	13.5	23.5	16.2	36.0	15.4
株価収益率 (倍)	5.5	4.5	5.5	3.2	6.5
配当性向 (%)	—	—	—	12.6	32.5
従業員数 (ほか、平均臨時雇用者数) (名)	151 (34)	130 (26)	125 (25)	108 (21)	95 (24)

- (注) 1 売上高には、消費税等は含まれておりません。
 2 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
 3 第72期の 1 株当たり配当額8円 (1 株当たり中間配当額 0 円) には、記念配当3円を含んでおります。

2 【沿革】

年月	沿革
昭和27年 5 月 2 日	東京都大田区大森に資本金 2,000千円をもって、中央無線株式会社を設立し、ラジオ部品・テレビ部品の製造・販売を開始。
昭和27年 5 月	本社工場(旧 3 号館)完成。
昭和28年 6 月	テレビ受像機キットの製造・販売を開始。
昭和29年 6 月	本社工場(旧 2 号館)増設。
昭和31年 4 月	放送用スタジオ機器(モニタテレビ等)の製造・販売を開始。
昭和34年 4 月	テレビ・ビデオカメラ用撮像管偏向コイルの製造・販売を開始。
昭和39年 9 月	本社工場(旧 1 号館)増設。
昭和43年 5 月	医療用、電算機用等のCRTディスプレイの製造・販売を開始。
昭和44年12月	本社工場(旧 4 号館)増設。
昭和49年 6 月	茨城工場を新設。
昭和57年 9 月	平塚工場を新設。
昭和60年 6 月	平塚工場(2 号棟)増設。
昭和60年11月	社団法人日本証券業協会に登録。
昭和61年 7 月	大阪営業所開設。
平成 7 年 2 月	シンガポールにCHUOMUSEN SINGAPORE PTE LTDを設立。
平成 7 年 4 月	平塚工場 I S O 9 0 0 1 の認証取得。
平成 8 年 4 月	東京都大田区に(株)テクノス サンキューを設立。
平成 9 年 6 月	茨城工場を茨城サイトへ変更。
平成10年10月	本社社屋を建替。
平成11年11月	CHUOMUSEN SINGAPORE PTE LTDを清算。
平成12年12月	株式交換によりテクニカル電子(株)(旧連結子会社)を完全子会社化。
平成15年 6 月	福岡営業所開設。
平成15年 7 月	I S O 1 4 0 0 1 の認証取得。
平成16年 6 月	テクニカル電子(株)(旧連結子会社)が I B サポートセンターを開設。
平成16年12月	株式会社ジャスダック証券取引所に株式を上場。
平成17年 8 月	テクニカル電子(株)(旧連結子会社)が株式の取得により E P E (株)(現連結子会社)を子会社化。
平成17年 9 月	テクニカル電子(株)(旧連結子会社)が株式の取得により日飛電子精機(株)(旧連結子会社)を完全子会社化。
平成17年10月	子会社であるテクニカル電子(株)(旧連結子会社)と合併し、商号をテクニカル電子(株)に変更。
平成19年 4 月	連結子会社である日飛電子精機(株)と合併。
平成22年 4 月	ジャスダック証券取引所と大阪証券取引所の合併に伴い、大阪証券取引所(JASDAQ市場)に株式を上場。
平成22年10月	大阪証券取引所へラクレス市場、同取引所JASDAQ市場及び同取引所NEO市場の各市場の統合に伴い、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)に株式を上場。

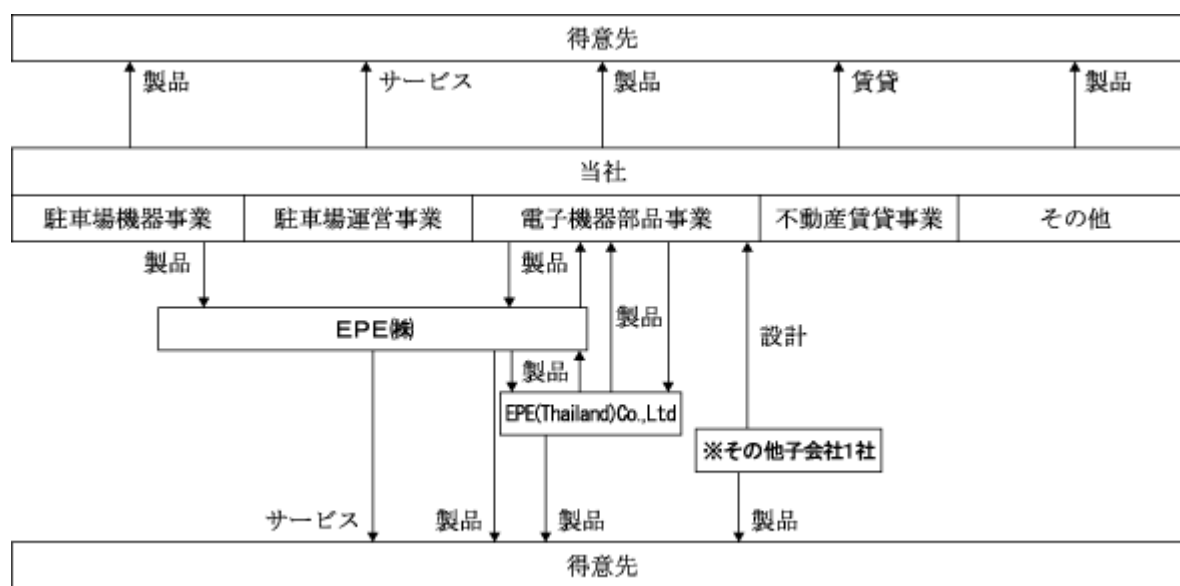
3 【事業の内容】

当社グループは、当社及び子会社3社で構成されております。

当社グループの主な事業内容と当社及び子会社の事業に係る位置づけ及びセグメントとの関連は次のとおりであり、セグメントと同一の区分であります。

駐車場運営事業……	時間貸駐車場等の管理運営を行っており、主に当社が事業を行っております。
駐車場機器事業……	駐車場に設置されるコインパ - キング装置等を製造販売しており、当社が事業を行っております。
電子機器部品事業…	放送局、医療用、船舶用モニタ・電算機用ディスプレイ等の電子機器ならびに民生、産業用に使用されるソケット、コネクタ等の電子部品を製造・販売しており、主として当社が製造・販売するほか子会社であるE P E (株)、E P E (Thailand)Co.,LTD.も製造・販売を行っております。
不動産賃貸事業……	商業施設及びオフィスビルの賃貸業を行っており、当社が事業を行っております。
その他……………	その他は主に、ハウス栽培用ヒートポンプ空調等の農事用商品の販売を行っているアグリ事業と、R O浄水器や水プラント用充填機の販売を行っているアクア事業で、当社が事業を行っております。

事業の系統図は次のとおりであります。



※は非連結子会社

4 【関係会社の状況】

連結子会社

名称	住所	資本金 (千円)	主要な事業 の内容	議決権の 所有割合 (%)	当社との関係内容
E P E (株)	東京都 町田市	100,000	電子機器部品事業	100	役員の兼任 2名
E P E (Thailand)Co.,LTD.	Thailand Ayutthaya	80,990 (千バ - ツ)	電子機器部品事業	100 (100)	役員の兼任 1名

(注) 1 「主要な事業の内容」欄には、セグメントの名称を記載しております。

2 議決権の所有割合の()は、間接所有割合を内数で記載したものであり、E P E (株)が100%所有しております。

3 E P E (株)の議決権所有割合には、当社の前代表取締役会長本房周作名義分を含んでおります。

4 E P E (Thailand)Co.,LTD.は特定子会社であります。

5 上記連結子会社は有価証券届出書又は有価証券報告書を提出していません。

5 【従業員の状況】

(1) 連結会社の状況

平成25年3月31日現在

セグメントの名称	従業員数(名)
駐車場運営事業	59 (17)
駐車場機器事業	
電子機器部品事業	147 (28)
その他	10 (-)
全社(共通)	10 (2)
合計	226 (47)

(注) 1 従業員数は、就業人員であります。

2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。

3 臨時従業員には、アルバイト、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。

4 駐車場運営事業及び駐車場機器事業は、同一の従業員が事業に従事しております。

5 不動産賃貸事業は、全社(共通)の従業員が兼務しております。

6 全社(共通)は、総務及び経理等の管理部門の従業員であります。

(2) 提出会社の状況

平成25年3月31日現在

従業員数(名)	平均年齢(歳)	平均勤続年数(年)	平均年間給与(千円)
95 (24)	40.83	14.03	4,449

セグメントの名称	従業員数(名)
駐車場運営事業	59 (17)
駐車場機器事業	
電子機器部品事業	16 (5)
その他	10 (-)
全社(共通)	10 (2)
合計	95 (24)

- (注) 1 従業員数は、就業人員であります。
2 従業員数欄の(外書)は、臨時従業員の年間平均雇用人員であります。
3 臨時従業員には、アルバイト、パートタイマー及び嘱託契約の従業員を含み、派遣社員を除いております。
4 駐車場運営事業及び駐車場機器事業は、同一の従業員が事業に従事しております。
5 不動産賃貸事業は、全社(共通)の従業員が兼務しております。
6 平均年間給与は、賞与及び基準外賃金を含んでおります。
7 従業員数が前事業年度末に比べ13名減少したのは、経営合理化等によるものであります。

(3) 労働組合の状況

当社グループでは、当社においてテクニカル電子労働組合が組織されており、上部団体には属しておりません。平成25年3月31日現在の組合員数は23人で、労使関係について特記すべき事項はありません。

第 2 【事業の状況】

1 【業績等の概要】

(1) 業績

当連結会計年度におけるわが国経済は、東日本大震災の復興需要に支えられ、緩やかに持ち直しつつあり、政権交代に伴う経済政策への期待による円安、株高の動きがあるものの、欧州の政府債務危機や中国を始めとしたアジア経済の減速の影響など、依然として厳しい状況が続いております。

このような経済環境の中で当社グループは駐車場機器及び電子機器部品の開発・販売に加え、施設園芸ハウス向けヒートポンプ空調を始めとした農事用商品の販売及びアクア（水）事業としてＲＯ浄水器や水プラント用充填機の販売を行い、売上及び利益の向上に努めてまいりました。

当社の主力事業である駐車場関連事業は、駐車場運営事業が概ね好調であり、駐車場機器事業も前連結会計年度より若干の増収となりました。また、電子機器部品事業のモニタ、ディスプレイの電子機器およびソケット、コネクタの電子部品並びにデジタルカメラ、携帯電話、自動車部品用プレス部品の売上は、全般的に低調に推移いたしました。

その結果、当連結会計年度の売上高は56億3,659万円（前連結会計年度比1.4％増）となりました。生産の効率化や経費削減等、原価低減を積極的に推進しましたが、損益面につきましては、営業利益は5億1,642万円（前連結会計年度比19.6％減）、経常利益は3億9,833万円（前連結会計年度比23.7％減）、当期純利益は2億475万円（前連結会計年度比57.8％減）となりました。

セグメントの業績は次のとおりであります。

（駐車場運営事業）

「駐車場運営事業」につきましては、直営駐車場の収益向上に努め新設直営駐車場が増加したことなどから、売上高は20億2,663万円（前連結会計年度比5.9％増）と増収になりましたが、新設直営駐車場の原価負担増により、セグメント利益（営業利益）は3億2,007万円（前連結会計年度比13.5％減）と減益になりました。

（駐車場機器事業）

「駐車場機器事業」につきましては、バゲート式全自動パーキングシステム“とめタロー”とロック板式集中精算管理システム“ＴＰＣ－ＭＰ200”を中心に拡販を図り、また、車両等の入退出認証システムの販売を推進しました。その結果、売上高は15億8,569万円（前連結会計年度比1.9％増）と増収になりましたが、原価率が増加したことなどから、セグメント利益（営業利益）は2億2,781万円（前連結会計年度比29.9％減）と減益になりました。

（電子機器部品事業）

「電子機器部品事業」の電子機器につきましてはＬＣＤモニタの販売、電子部品につきましてはカスタム品コネクタの販売、各種プレス部品につきましてはデジカメ・携帯電話・ＨＤＤ用部品、自動車用部品の拡販を図りました。しかしながら電子機器のＣＲＴモニタと電子部品の売上高が減少したことと、当社連結子会社ＥＰＥ（Thailand）Co., LTD.（12月決算会社）が一昨年10月のタイ王国での豪雨の影響で浸水被害を受けプレス部品の操業を一時停止した影響で生産が従来の70％程度であったことなどから、売上高は13億9,078万円（前連結会計年度比14.4％減）となり、原価低減（粗利率改善）等を積極的に推進しましたが、セグメント利益（営業利益）は1億1,653万円（前連結会計年度比21.1％減）となりました。

（不動産賃貸事業）

「不動産賃貸事業」につきましては、平成22年10月に賃貸業の収益力を図る目的で購入いたしましたＫＭＭビルの上売が当期も貢献した結果、売上高は3億2,554万円（前連結会計年度比0.1％増）となり、セグメント利益（営業利益）は1億7,196万円（前連結会計年度比3.5％減）となりました。

（その他）

その他（アグリ事業等）は、ハウス栽培用ヒートポンプ空調等の農事用商品の拡販及びアクア（水）事業としてR O浄水器や水プラント用充填機の拡販を推進しました。その結果、売上高は3億794万円（前連結会計年度比124.9%増）となりましたが、セグメント損失（営業損失）はアクア（水）事業の販売強化による経費負担増などにより172万円（前連結会計年度は4,575万円のセグメント損失）となりました。

(2) キャッシュ・フローの状況

当連結会計年度末における連結ベ - スの現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、営業活動によるキャッシュ・フローで3億7,198万円増加し、投資活動によるキャッシュ・フローで8,309万円減少、財務活動によるキャッシュ・フローで18億3,456万円減少した結果、前連結会計年度末に比べ、14億9,737万円減少し、8億43万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー - ）

営業活動の結果、増加した資金は、3億7,198万円となり前年同期と比べ6億71万円(61.8%)の減少となりました。これは、主に法人税等の支払額1億9,558万円があったものの、税金等調整前当期純利益の増加3億8,928万円と減価償却費2億6,280万円などがあったこと等によるものであります。

（投資活動によるキャッシュ・フロー - ）

投資活動の結果、支出した資金は、8,309万円となり前年同期と比べ1億3,976万円(62.7%)の減少となりました。これは、主に定期預金の純収入額1億6,804万円があったものの、有形固定資産の取得により2億3,926万円支出したことによるものであります。

（財務活動によるキャッシュ・フロー - ）

財務活動の結果、減少した資金は、18億3,456万円となり前年同期と比べ11億2,776万円(前年同期は679万円の支出)の減少となりました。これは、長期借入金の純支出額6億3,861万円及び短期借入金の純支出額8億3,371万円並びに社債の償還による支出2億4,000万円があったこと等によるものであります。

2 【生産、受注及び販売の状況】

(1) 生産実績

当連結会計年度における生産実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前期同期比(%)
駐車場機器事業	1,878,718	+0.3
電子機器部品事業	1,452,157	19.2
合計	3,330,876	9.2

- (注) 1 金額は販売価格によっております。
 2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。
 3 駐車場運営事業は、時間貸駐車場の運営をしており、生産実績として表示すべき適当な指標がないため、記載しておりません。
 4 不動産賃貸事業とその他は、生産実績として表示すべき適当な指標がないため、記載しておりません。

(2) 受注実績

当連結会計年度における受注実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前期同期比(%)	受注残高(千円)	前期同期比(%)
駐車場機器事業	1,574,745	+11.9	119,879	8.4
電子機器部品事業	1,363,990	3.8	177,232	13.1
合計	2,938,735	+4.0	297,111	11.3

- (注) 1 金額は販売価格によっております。
 2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
 3 駐車場運営事業は、時間貸駐車場の運営をしており、受注実績として表示すべき適当な指標がないため、記載しておりません。
 4 不動産賃貸事業とその他は、受注実績として表示すべき適当な指標がないため、記載しておりません。

(3) 販売実績

当連結会計年度における販売実績をセグメントごとに示すと、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前期同期比(%)
駐車場運営事業	2,026,636	+5.9
駐車場機器事業	1,585,692	+1.9
電子機器部品事業	1,390,785	14.4
不動産賃貸事業	325,540	+0.1
その他	307,941	+124.9
合計	5,636,595	+1.4

- (注) 1 金額は販売価格によっております。
 2 上記金額には、消費税等は含まれておりません。
 3 セグメント間取引については、相殺消去しております。

3 【対処すべき課題】

今後の見通しといたしましては、景気は回復基調にあるものの、引き続き収益環境は不透明な要因もあります。

当社グループは、駐車場関連事業及び電子機器部品事業の市場対応力を強化し、営業効率を向上させ、拡販に努めるとともに、引き続き原価低減（粗利率改善）等を積極的に推進いたします。また、施設園芸ハウス向けヒートポンプ空調を始めとした農事用商品の販売及びアクア（水）事業としてRO浄水器や水プラント用充填機の販売も、営業力を強化し、拡販を強力に推し進めてまいり所存であります。

倫理・遵法につきましては、「コンプライアンス規程」を倫理規範として推進するとともに、内部統制に関する各種規程の見直しを進めてまいります。

環境保全活動に対しても、ISO14001：2004の認証を維持し、エネルギー資源使用量ならびに廃棄物発生量の削減、環境配慮製品の供給を事業活動の一環として両立してまいります。

4 【事業等のリスク】

当社グループの事業等に関するリスクについては、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性がある主な事項を下記のとおり記載します。下記事項には、将来に関するものが含まれますが、当連結会計年度末（平成25年3月31日）現在において当社グループが判断したものであり、事業等のリスクはこれらに限られるものではありません。

(1)新製品開発力

当社グループは、独自性のある製品技術開発力により競合他社との差別化を図ることが、将来の成長性、収益性の向上に寄与するものと考えております。

しかしながら、新製品の開発と販売プロセスには以下のようなリスクが含まれております。

市場から支持を獲得できる新製品又は新技術を正確に予想できるとは限らず、これらの製品の市場での販売状況によって業績が大きく変動する可能性があります。

現在開発中の新技術の製品化の遅れにより、市場のニーズに対応できなくなる可能性があります。

以上のリスクをはじめとして、業界と市場の変化を十分に予測できず、魅力ある新製品を開発できない場合には、将来の成長と収益性を低下させ、投下資金の負担が業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(2)海外等の事業展開

当社グループは、電子機器部品事業において製造コスト削減のため、台湾、韓国、中国等へのアウトソーシングを積極的に展開しており、また、タイに連結子会社を有しておりますが、以下のようなリスクが考えられます。

為替の変動

予期しない法規又は税制の変更

テロ、戦争、その他の要因による社会的混乱

政治又は法環境の変化、経済状況の変化による社会的混乱で事業の遂行に問題が生じる可能性があります。従いまして、これらの事象は業績と財務状況に影響を与える可能性があります。

(3)製品の欠陥

当社グループは、適用される法規、規格、基準及び顧客の要求事項を満足し、性能、安全性、信頼性ともに優れた製品を生産いたしておりますが、将来においてリコールが発生しないという保証はありません。リコールの状況によっては業績と財務状況に影響を及ぼす可能性があります。

(4)金利変動リスク

当社グループは、事業拡大等の必要資金を主に金融機関からの借入により調達しており、有利子負債依存度が高い状態です。当社グループとしては、今後借入金の削減による財務体質の強化に努める方針ですが、金利の大幅な上昇により支払利息が増加し、当社グループの業績及び財務状況に影響を与える可能性があります。

5 【経営上の重要な契約等】

該当事項はありません。

6 【研究開発活動】

当社グループは、映像技術をはじめ、専門分野における独創的な技術の開発を基本理念として、製品の企画から開発に至るまで、積極的な研究開発活動を行っております。

現在、研究開発は当社の開発部、機器設計部、部品設計課及び子会社の開発部門によって推進しております。

当連結会計年度における当社グループ全体の研究開発費の総額は1,381万円です。

セグメントごとの研究開発活動を示すと次のとおりであります。

(1) 駐車場運営事業及び駐車場機器事業

当社が主体となって、駐車場に設置されるコインパーキング(有料駐車場)装置のゲートシステム機器及び、ロックプレートシステム機器の研究開発を行っております。

当連結会計年度での主な成果としては、各々のシステムにおける信頼性環境対応及びローコスト化の開発検討、駐車場管理センターシステム、自転車駐輪機の開発及び車両等の入退出認証システムの拡充等をあげることが出来ます。

なお、当事業に係る研究開発費は984万円です。

(2) 電子機器部品事業

1 電子機器

当社が主体となって、産業用途全般に渡るLCDモニタ、広告用表示装置等の開発を行っております。

産業関連

当社が主体となって、監視用、アミューズメント用、魚群探知機用、電管用等の産業システム向け表示装置組込み用表示器の開発を行っております。当連結会計年度での主な成果としては、病院向け精算機用19インチタッチパネルプライバシ-フィルム付きLCDモニタの開発等をあげることが出来ます。

広告用表示装置関連

当社が主体となって、広告用表示装置及び関連製品の開発を行っております。

2 電子部品

当社が主体になって、民生機器、医療、セキュリティ等の産業機器に使用されるプラグ、コネクタ、ソケットやケ - ブルの開発を行っております。当連結会計年度での主な成果としては、アミューズメント向けにDVI、HDMIケーブル、医療機器向けのカスタムケーブルの開発等をあげることが出来ます。

なお、当事業に係る研究開発費は397万円であります。

(3) その他

アグリ事業関連

当社が主体となって、農業の省力化、省エネルギー化を目的としたシステムの研究開発を行っております。

なお、当事業に係る研究開発費は発生しておりません。

7 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、有価証券報告書提出日（平成25年6月26日）現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 重要な会計方針及び見積り

当社グループの連結財務諸表は、わが国において一般に公正妥当と認められている会計基準に基づき作成されています。

この連結財務諸表の作成に当たって採用している重要な会計基準は「第5 経理の状況 1 連結財務諸表等 (1) 連結財務諸表 連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」に記載されているとおりであります。

当社グループの連結財務諸表の作成において、損益または資産及び負債の状況に影響を与える見積もり、判断は、過去の実績や状況に応じて合理的と考えられる要因等に基づき行っておりますが、見積り特有の不確実性があるため、実際の結果は異なる場合があります。

(2) 当連結会計年度の財政状態及び経営成績の分析

1 財政状態

資産

当連結会計年度末の資産合計は、90億7,213万円（前連結会計年度末比15億1,958万円減）となりました。

流動資産につきましては、現金及び預金が減少したこと等により、20億1,713万円（前連結会計年度末比16億4,248万円減）となりました。

固定資産につきましては、建物及び構築物が減少したものの、機械、運搬具及び工具器具備品が増加したこと等により、70億5,499万円（前連結会計年度比1億2,289万円増）となりました。

負債

当連結会計年度末の負債合計は、68億2,234万円（前連結会計年度末比17億2,655万円減）となりました。

流動負債につきましては、短期借入金及び1年内返済予定の長期借入金が減少したこと等により、19億787万円（前連結会計年度末比15億480万円減）となりました。

固定負債につきましては、社債が減少したことなどにより、49億1,446万円（前連結会計年度末比2億2,175万円減）となりました。

純資産

当連結会計年度末の純資産合計は、22億4,978万円（前連結会計年度末比2億696万円増）となりました。剰余金の配当があったものの当期純利益の計上により利益剰余金が増加したことから為替換算調整勘定が増加したことなどによるものであります。

2 経営成績

売上高

売上高は、56億3,659万円（前連結会計年度比1.4%増）となりました。電子機器部品事業のモニタ、ディスプレイの電子機器およびソケット、コネクタの電子部品並びにデジタルカメラ、携帯電話、自動車部品用プレス部品の売上は、全般的に低調に推移したものの、主力事業である駐車場関連事業が概ね好調であったことなどによるものであります。

売上総利益

売上総利益は、14億5,604万円（前連結会計年度比10.1%減）となりました。これは、売上高が増加し、生産の効率化や経費削減等、原価低減を推進したものの、新設直営駐車場の原価負担増などにより売上原価増加したことによるものであります。

販売費及び一般管理費

販売費及び一般管理費は、9億3,961万円（前連結会計年度比3.9%減）となりました。これは諸経費等の削減に努めた結果によるものであります。

営業利益

営業利益は、5億1,642万円（前連結会計年度比19.6%減）となりました。これは、販売費及び一般管理費が減少したものの、売上原価が増加し売上総利益が減少したことによるものであります。

営業外損益

営業外収益は、1,577万円（前連結会計年度比19.9%減）となりました。これは、主として前連結会計年度に保険解約返戻金を計上していたことなどによるものであります。

営業外費用は、1億3,387万円（前連結会計年度比4.4%減）となりました。これは、為替差損が発生したものの、支払利息が減少したことなどによるものであります。

経常利益

経常利益は、3億9,833万円（前連結会計年度比23.7%減）となりました。これは、販売費及び一般管理費並びに営業外費用が減少したものの、売上原価が増加し売上総利益が減少したことによるものであります。

特別損益

特別利益は、101万円（前連結会計年度比99.2%減）となりました。これは、主として前連結会計年度に東京本社土地の一部を東京都に譲渡したことによる収用補償金の計上と、タイで発生した洪水により保険差益を計上したことなどによるものであります。

特別損失は、1,005万円（前連結会計年度比45.1%減）となりました。これは、固定資産除却損及び訴訟関連損失が減少したことなどによるものであります。

当期純利益

当期純利益は、2億475万円（前連結会計年度比57.8%減）となりました。

3 キャッシュ・フローの状況の分析

キャッシュ・フローについては、「第2 事業の状況 1 業績等の概要」に記載のとおりであります。

(3) 戦略的現状と見通し

当社グループとしては、市場（お客様）からのニーズを的確に捉え、ご満足頂ける製品を提案（提案型営業）する事で、主力製品である駐車場関連製品及び電子機器部品製品の拡充を積極的に図ってまいり

ます。

具体的には、駐車場関連事業ではグループ内における販売体制の強化を進め、更なる拡販に努めてまいります。電子機器部品事業においては、強固な収益基盤の早期確立に努め、更なる品質の向上、原価低減の推進、営業力強化、リ・ドタイムの短縮、重点事業への開発力の強化などにより高付加価値商品の拡充を図り、他社に対する競争力を高めてまいります。また営業力を強化し、その他のアグリ事業では、ハウス栽培用ヒートポンプ空調機器を、また、アクア(水)関連事業等の拡販を推進してまいります。

(4) 資本の財源及び資金の流動性についての分析

当社グループの資金状況は、当連結会計年度末における現金及び現金同等物は、8億43万円(前連結会計年度比14億9,737万円の減少)となっております。

営業活動によるキャッシュ・フローは、3億7,198万円の増加(前連結会計年度比6億71万円の減少)となりました。

これは、増加要因として法人税等の支払額1億9,558万円があったものの、税金等調整前当期純利益の増加3億8,928万円と減価償却費2億6,280万円などがあったこと等によるものであります。

投資活動によるキャッシュ・フローは、8,309万円の減少(前連結会計年度比1億3,976万円の増加)となりました。

これは、主に定期預金の純収入額1億6,804万円があったものの、有形固定資産の取得により2億3,926万円支出したことによるものであります。

財務活動によるキャッシュ・フローは、18億3,456万円の減少(前連結会計年度比18億2,776万円の減少)となりました。

これは、長期借入金の純支出額6億3,861万円及び短期借入金の純支出額8億3,371万円並びに社債の償還による支出2億4,000万円があったこと等によるものであります。

(5) 経営者の問題認識と今後の方針について

当社グループでは、常に市場のニーズを的確に捉え、お客様が真に望む製品を提供出来るようスピーディな経営体制を構築し、自社ブランド製品を自社開発、自社生産、自社販売することにより、製品を通して広くお客様の満足と信用を得ることを経営方針としております。

第3 【設備の状況】

1 【設備投資等の概要】

当連結会計年度の設備投資については、駐車場事業と電子機器部品事業用の機械装置及び運搬具、工具、器具及び備品等に3億5,113万円の投資を行いました。

セグメントの設備投資について示しますと、駐車場運営事業では直営駐車場用関連設備等に1億6,329万円、電子機器部品事業では工具、器具及び備品及び連結子会社のE P E (Thailand) Co., LTD.の機械装置及び運搬具に1億1,625万円、その他の事業で7,158万円の設備投資を行いました。

2 【主要な設備の状況】

(1) 提出会社

平成25年3月31日現在

事業所名 (所在地)	セグメントの 名称	設備の内容	帳簿価額(千円)						従業員 数 (名)
			建物 及び構築物	機械装置 及び運搬具	工具器具 及び備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
東京本社 (東京都大田区)	全社共通 駐車場運営事業 駐車場機器事業 電子機器部品事業 不動産賃貸事業	総括業務設備 販売設備 賃貸設備	492,610 237,158	47,501	14,957	885,609 (2,691)	23,203	1,463,882	31 〔4〕
福岡支社 (福岡市南区他)	駐車場運営事業 駐車場機器事業 電子機器部品事業 不動産賃貸事業	生産設備 販売設備 倉庫設備 賃貸設備	1,248,958 976,277	48,862	70,959	1,704,653 (11,352)	—	3,073,433	25 〔9〕
平塚工場 (神奈川県平塚市)	駐車場運営事業 駐車場機器事業 電子機器部品事業	生産設備	99,242	10,145	52,411	598,794 (5,948)	—	760,594	18 〔6〕
茨城サイト (茨城県稲敷市)	電子機器部品事業	倉庫設備	4,311	—	—	13,600 (4,727)	—	17,911	—
大阪営業所 (大阪市阿倍野区)	駐車場運営事業 駐車場機器事業 電子機器部品事業	販売設備	10,440	17,108	44,149	— (—)	—	71,698	6 〔1〕
仙台営業所 (仙台市青葉区)	駐車場運営事業 駐車場機器事業	販売設備	14,029	19,035	33,573	32,000 (137)	—	98,639	6 〔-〕
その他	駐車場運営事業 駐車場機器事業	販売設備	19,386	15,223	44,541	— (—)	—	79,133	9 〔4〕

- (注) 1 上記中 内書 は、賃貸設備であります。
2 上記中〔外書〕は、臨時従業員数の年間平均雇用人員であります。
3 直営駐車場用土地及び建物の一部は賃借しており、年間賃借料は1,309,423千円であります。
4 現在休止中の主要な設備はありません。
5 帳簿価額「その他」は、建設仮勘定及びリ－ス資産であります。金額には消費税等は含まれておりません。

(2) 国内子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)					従業員数 (名)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬 具	工具器具 及び備品	土地 (面積㎡)	合計	
E P E (株)	本社 (東京都 町田市)	電子機器 部品事業	総括業務 設備 生産設備 販売設備	41,999	62,029	6,774	388,720 (5,622)	499,524	27 〔7〕

(注) 上記中〔外書〕は、臨時従業員数の年間平均雇用人員であります。

(3) 在外子会社

平成25年3月31日現在

会社名	事業所名 (所在地)	セグメント の名称	設備の 内容	帳簿価額(千円)						従業員数 (名)
				建物 及び構築物	機械装置 及び運搬 具	工具器具 及び備品	土地 (面積㎡)	その他	合計	
E P E (Thailand) Co., LTD.	Thailand Ayutthaya	電子機器 部品事業	総括業務 設備 生産設備 販売設備	132,637	236,444	3,766	41,675 (16,672)	1,998	416,523	104 〔17〕

(注) 上記中〔外書〕は、臨時従業員数の年間平均雇用人員であります。

3 【設備の新設、除却等の計画】

経常的な設備の更新のための除却等を除き、当連結会計年度末において重要な設備の新設、除却等の計画はありません。

第4 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	16,200,000
計	16,200,000

【発行済株式】

種類	事業年度末現在 発行数(株) (平成25年3月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年6月26日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	8,038,100	8,038,100	大阪証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数は1,000株 であります。
計	8,038,100	8,038,100	—	—

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成18年6月29日 (注)	—	8,038,100	—	1,052,850	202,997	—

(注) 欠損てん補のための資本準備金取崩しによる減少であります。

(6) 【所有者別状況】

平成25年 3月31日現在

平成25年3月31日現在

区分	株式の状況(1 単元の株式数1,000株)								単元未満 株式の状況 (株)
	政府及び 地方公共 団体	金融機関	金融商品 取引業者	その他の 法人	外国法人等		個人 その他	計	
					個人以外	個人			
株主数 (人)	—	4	12	18	2	—	760	796	—
所有株式数 (単元)	—	595	26	1,081	12	—	6,303	8,017	21,100
所有株式数 の割合(%)	—	7.42	0.33	13.48	0.15	—	78.62	100.00	—

(注) 自己株式13,919株は「個人その他」に13単元及び「単元未満株式の状況」に919株含めて記載しております。

(7) 【大株主の状況】

平成25年 3月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (千株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
本 房 周 作	福岡県福岡市中央区	3,040	37.82
サンキュー産業(株)	東京都大田区山王 2 - 3 - 15	784	9.75
曾 田 俊 之	東京都大田区	479	5.96
(株)三井住友銀行	東京都千代田区丸の内 1 - 1 - 2	213	2.64
(株)みずほ銀行	東京都千代田区内幸町 1 - 1 - 5	213	2.64
菊 池 由 和	福岡県糸島市	156	1.94
ポッカサッポロフ・ド&ピバ レッジ(株)	愛知県名古屋市中区栄 4 - 2 - 29	142	1.76
みずほ信託銀行(株)	東京都中央区八重洲 1 - 2 - 1	140	1.74
テクニカル電子従業員持株会	東京都大田区大森西 1 - 9 - 12	119	1.48
アシードホールディングス(株)	広島県福山市船町 7 - 23	101	1.25
計	—	5,388	66.98

(8) 【議決権の状況】
 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 13,000	—	単元株式数は1,000株 であります。
完全議決権株式(その他)	普通株式 8,004,000	8,004	同上
単元未満株式	普通株式 21,100	—	—
発行済株式総数	8,038,100	—	—
総株主の議決権	—	8,004	—

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式919株が含まれております。

【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) テクニカル電子株式会社	東京都大田区大森西 1—9—12	13,000	—	13,000	0.16
計	—	13,000	—	13,000	0.16

(9) 【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

2 【自己株式の取得等の状況】

【株式の種類等】 会社法第155条第7号による普通株式の取得

(1) 【株主総会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(2) 【取締役会決議による取得の状況】

該当事項はありません。

(3) 【株主総会決議又は取締役会決議に基づかないものの内容】

区分	株式数(株)	価額の総額(千円)
当事業年度における取得自己株式	993	165
当期間における取得自己株式	229	59

(注) 当期間における取得自己株式には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

(4) 【取得自己株式の処理状況及び保有状況】

区分	当事業年度		当期間	
	株式数(株)	処分価額の総額 (円)	株式数(株)	処分価額の総額 (円)
引き受ける者の募集を行った 取得自己株式	—	—	—	—
消却の処分を行った取得自己株式	—	—	—	—
合併、株式交換、会社分割に係る 移転を行った取得自己株式	—	—	—	—
その他	—	—	—	—
保有自己株式数	13,919	—	14,148	—

(注) 当期間における保有自己株式には、平成25年6月1日から有価証券報告書提出日までの単元未満株式の買取による株式数は含めておりません。

3 【配当政策】

当社では株主の皆様に対する配当につきましては、最重要施策のひとつとして認識しておりますが、基本的には収益の状況に対応して決定すべきものと考えております。

当社の剰余金の配当は、中間配当及び期末配当の年2回を基本的な方針としており、会社法第459条の規定に基づき、取締役会の決議によって剰余金の配当を行うことができる旨を定款に定めております。

当事業年度の剰余金の配当につきましては、業績等を鑑みて、1株当たり11円(うち中間配当金5円)とさせていただきます。

(注) 基準日が当事業年度に属する配当は、以下のとおりであります。

決議年月日	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)
平成24年11月13日 取締役会決議	40,123	5
平成25年6月26日 定時株主総会決議	48,145	6

4 【株価の推移】

(1) 【最近5年間の事業年度別最高・最低株価】

回次	第69期	第70期	第71期	第72期	第73期
決算年月	平成21年3月	平成22年3月	平成23年3月	平成24年3月	平成25年3月
最高(円)	100	271	172	203	235
最低(円)	34	51	62	100	105

(注) 最高・最低株価は、平成22年3月31日以前はジャスダック証券取引所におけるものであり、平成22年4月1日から平成22年10月11日までは大阪証券取引所(JASDAQ市場)におけるものであり、平成22年10月12日以降は大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

(2) 【最近6月間の月別最高・最低株価】

月別	平成24年 10月	11月	12月	平成25年 1月	2月	3月
最高(円)	119	213	197	217	235	234
最低(円)	106	105	167	190	194	211

(注) 最高・最低株価は、大阪証券取引所JASDAQ(スタンダード)におけるものであります。

5 【役員の状況】

役名	職名	氏名	生年月日	略歴		任期	所有株式数 (千株)
代表取締役 社長	営業統括部 長	嶋 田 浩 司	昭和37年 3 月24日生	昭和59年 4 月 平成21年 4 月 平成23年 4 月 平成25年 4 月 平成25年 6 月	大和工商リース㈱入社 (現大和リース㈱) 同社執行役員就任 流通建築リース事業部長 同社取締役就任 オート＆リーシング事業部長 ロボット事業推進室担当 同社取締役上席執行役員就任 リーシングソリューション事業管掌 当社代表取締役社長兼営業統括部長就任 (現任)	(注)2	—
取締役	福岡製造部 長	本 房 伸 一	昭和40年 8 月14日生	昭和59年 4 月 平成12年 4 月 平成15年 6 月 平成17年10月 平成19年 4 月 平成20年 4 月 平成25年 6 月	東京芝浦電気㈱入社 テクニカル電子㈱入社 同社取締役就任 当社取締役商品管理部長就任 当社取締役生産本部本部長就任 当社取締役西日本パ-キング事業部副事業 部長兼福岡製造部長就任 当社取締役福岡製造部長就任(現任)	(注)2	38
取締役	環境事業部 長	上 梶 伸 哉	昭和33年10月30日生	昭和56年 4 月 平成12年 4 月 平成13年 6 月 平成17年11月 平成18年 9 月 平成21年 1 月 平成21年 5 月 平成25年 6 月	当社入社 電子機器開発部長 当社取締役 技術・開発統括部長就任 当社取締役 電子機器営業部長就任 技術本部副本部長兼駐車場機器設計部長 開発部長 販売推進部長 当社取締役環境事業部長就任(現任)	(注)2	5
常勤 監査役	—	犬 塚 辰 太 朗	昭和26年 7 月15日生	昭和50年 4 月 平成 7 年10月 平成11年 4 月 平成13年11月 平成21年 2 月 平成22年 6 月	当社入社 電磁営業課長 電子機器技術管理課長 第 2 営業部長代行 宇都宮営業所担当 当社監査役就任(現任)	(注)3	3
監査役	—	杉 岡 進 一	昭和21年11月18日生	昭和44年 4 月 平成14年 6 月 平成17年 6 月 平成18年 9 月 平成21年 6 月	新東亜交易㈱入社 同社取締役就任 飲料食品事業グループ担当役員 同社常務取締役就任 飲料食品事業グループ担当役員兼 環境資源グループ担当役員 ネスレペンディング㈱出向 代表取締役社長就任 当社監査役就任(現任)	(注)4	—
監査役	—	久 保 令 治	昭和28年 3 月25日生	平成 3 年 6 月 平成 4 年 1 月 平成15年 6 月 平成21年 6 月	(有)九州国際総合事務所開設 久保令治司法・行政事務所開設 テクニカル電子㈱監査役就任 当社監査役就任(現任)	(注)4	—
監査役	—	深 作 仁 一	昭和32年11月25日生	昭和56年 4 月 平成22年 4 月 平成23年 4 月 平成25年 4 月 平成25年 6 月	大和工商リース㈱入社 (現大和リース㈱) 同社執行役員就任 経理・財務担当、情報システム担当 同社取締役就任 経理・財務担当、情報システム担当 同社取締役上席執行役員就任 経理・財務担当、情報システム担当 当社監査役就任(現任)	(注)4	—
計							48

- (注) 1 監査役杉岡進一、久保令治及び深作仁一は、社外監査役であります。
2 取締役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成26年3月期に係る定時株主総会終結の時
までであります。
3 監査役の任期は、平成23年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成27年3月期に係る定時株主総会終結の時
までであります。
4 監査役の任期は、平成25年3月期に係る定時株主総会終結の時から平成29年3月期に係る定時株主総会終結の時
までであります。

6 【コーポレート・ガバナンスの状況等】

(1) 【コーポレート・ガバナンスの状況】

企業統治の体制

(イ)コーポレート・ガバナンスに関する基本的な考え方

当社では、コーポレート・ガバナンスの構築には、まず、経営トップの規律付けが重要と考えており、且つ「経営の透明性と責任の明白化」ということを、あらゆる場で問うよう考えております。すなわち報告、連絡、相談といった、いわゆるコミュニケーションの実践がコーポレート・ガバナンスの基本と考えております。

(ロ)会社の機関の内容及び内部統制システムの整備の状況

a. 会社の経営上の意思決定、執行及び監督に係る経営管理組織その他のコーポレート・ガバナンス体制の状況

当社の取締役は3名で構成し、取締役会を毎月開催し、その他必要に応じ臨時の取締役会を開催しており、経営の基本方針や法令で定められた事項及び経営に関する重要事項を審議決定しております。役員ミーティングも頻繁に行い、取締役間での情報交換や執行監督を図っております。また、取締役、監査役、執行役員及び主要部門長の出席による経営会議を適宜開催し、各部門の報告、問題等を討議しております。

(取締役会)

意思決定機関である取締役会は取締役3名で構成され、毎月開催し、経営の基本方針や経営に関する重要事項を審議決定するとともに各取締役から業務執行の報告を行っております。また、役員ミーティングを頻繁に行い、情報の交換や迅速な業務執行を図っております。

(経営会議)

取締役、監査役、執行役員、主要部門長が出席の経営会議を適宜開催し、経営計画の立案審議や各部門の報告、問題点等について討議しております。

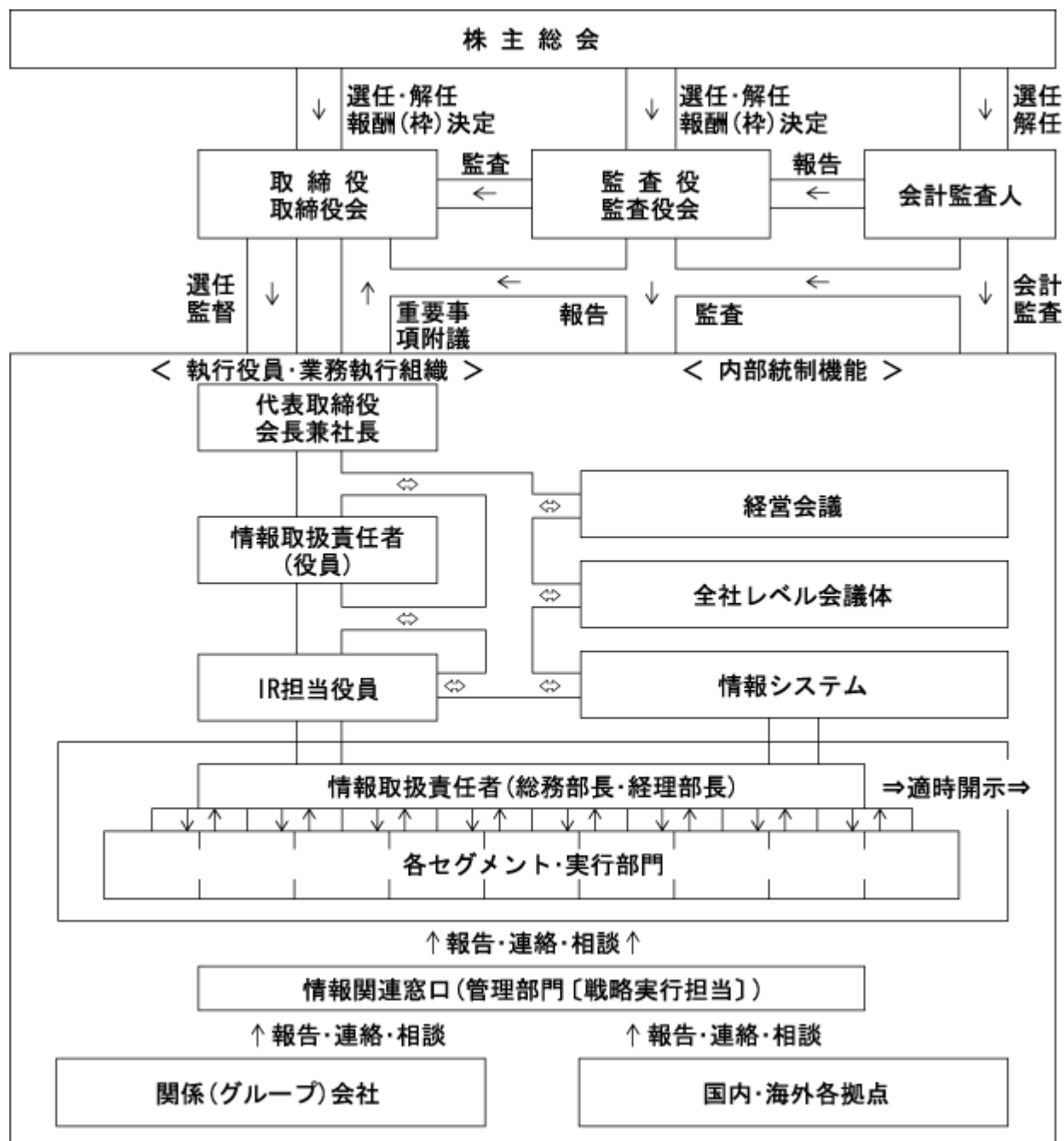
(監査役会)

監査役会は監査役4名で構成され、そのうち3名を社外から招聘しております。監査役は取締役会に出席するほか経営会議等の社内重要会議に出席し、取締役の業務執行を監視しております。

b. 企業統治の体制を採用する理由

取締役会を中心として、経営上の意思決定、執行及び監督について、リスク管理、コンプライアンスの徹底及び内部統制の向上を図ることを目的としております。

コーポレート・ガバナンス（内部統制）体制の模式図は次のとおりであります。



c. 内部統制システムに関する基本的な考え方及びその整備状況

当社は、「取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するために必要な体制の整備」に関し、次の通り基本方針を決定しております。

なお、当社を取巻く経営環境の変化等に応じて、基本方針の有効性を継続的に監視及び評価することにより基本方針に見直しを加え、内部統制システムの充実と経営資源に見合った効率的な運用に努めるものと致します。

(内部統制システム構築の基本方針の概要)

(a) 取締役及び使用人の業務が法令及び定款に適合することを確保するための体制

取締役及び使用人が法令・定款を遵守し、倫理を尊重する行動が出来るよう「コンプライアンス規程」及び各種規程による行動基準を定める。

また、その徹底を図るために「経営会議」にてコンプライアンス上の重要な問題を審議するとともに「コンプライアンス事務局」を総務部内に設置し、コンプライアンス体制の維持・向上を図り、啓蒙教育を実施する。

さらに「コンプライアンス事務局」は取締役及び使用人がコンプライアンス上、疑義有る行為を発見した場合、会社に対し通報を行う窓口機能を保有させるものとする。

(b) 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

取締役の職務の執行に係る情報については「文書管理規程」等に基づき、その保存媒体に応じて適切・確実に、且つ検索及び閲覧可能な状態で定められた期間、保存管理するものとする。

(c) 損失の危険の管理に関する規定その他の体制

組織横断的なリスクについては、取締役会（出席者：取締役・監査役・総務部長・経理部長・子会社取締役その他必要と認めた者）にて、リスク管理体制を構築する。尚、新たに生じたリスクについては、「取締役会」で対応責任者を指名し、速やかに対応する。

また、不測の事態が発生した場合には、社長指揮下の対策本部を設置し、迅速な対応を行い、損害の拡大を防止する体制を整えるものとする。

(d) 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

・ 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制の基礎として、取締役会を原則毎月1回定時に開催するほか、適宜臨時に開催するものとする。

また、経営に関する重要事項については、「経営会議」において討議し、その審議を経て取締役会に諮るものとする。

・ 取締役会の決定に基づく業務執行については、組織規程、職務分掌規程、職務権限規程において、それぞれの責任者及びその責任、執行手続の詳細について定める。

・ 中期経営計画及び年度事業計画を立案し、全社的な目標を設定する。また、取締役、執行役員及び各部門長により構成された会議体において、定期的に部門レベルの業績の開示と見直しを行い、改善策の報告と具体的な施策を実施させる。

(e) 当社及びその子会社から成る企業集団における業務の適正を確保するための体制

グループ各社の経営管理及び内部統制に関しては戦略実行室を窓口とし、グループ各社の事業を所管する各事業部門と連携の上で、グループ各社における内部統制の実効性を高める施策を構築・実施する。

また、必要に応じてグループ各社への指導、支援を行うものとする。

(f) 監査役の職務を補助すべき使用人に関する体制と当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

監査役が必要とした場合、監査役の職務を補助する使用人を置くものとする。

なお、使用人の任命・異動・評価・懲戒は事前の監査役会の意見を尊重した上で行うものとし、当該使用人の取締役会からの独立性を確保するものとする。

(g) 取締役及び使用人が監査役に報告するための体制その他の監査役への報告に関する体制及び監査役の監査が実効的に行われることを確保するための体制

・ 取締役及び使用人は当社及びグループ各社の業務または業績に与える重要な事項について監査役に報告するものとし、業務の執行に関する法令違反・定款違反及び不正行為の事実、または当社及びグループ各社に損害を及ぼす事実を知った時はこれを遅滞なく報告するものとする。

また、前記に拘らず、監査役は必要に応じて、取締役及び使用人に対し報告を求めることが出来るものとする。

・ 監査役は、会計監査人・内部監査部門・グループ各社の監査役と情報交換に努め、連携して当社及びグループ各社の監査の実効性を確保するものとする。

内部監査及び監査役監査

内部監査は組織に属さず取締役会直属の監査責任者並びに監査担当者（合計４名）を設け、「内部統制監査規程」に則り各年度毎に承認された「内部統制監査基本計画書」に基づき子会社を含めコンプライアンス、会計、業務、ＩＴ等の内部統制の状況に対し実施しています。監査結果は、被監査部門長に講評後「内部統制監査実施報告書」により代表取締役、監査役、会計監査人へ報告を行い内部統制状況の共有化を行っています。

また、定期的な内部統制委員会を通じて監査結果、是正状況を内部統制部門の責任者に対し適宜報告がなされています。

監査役監査は、常任監査役１名が年次の監査計画「定常的監査業務計画書」に基づく監査と共に月次の取締役会、経営会議、その他グループ内の重要会議への出席、諸書類の閲覧を通じて実施しています。

また、監査役と会計監査人との相互連携については、会計監査人との面談、会計監査人の監査への立会いによりお互いのコミュニケーションを図っております。

会社と会社の社外取締役及び社外監査役の人的関係、資本的関係又は取引関係その他の利害関係の概要

当社は社外取締役を選任しておりませんが、監査役については４名のうち３名を、豊富な経験及び幅広い見識を当社事業活動の監督に取り入れる観点から社外より招聘して監査を実施することにより、経営に関する監視機能の面では十分に機能する体制を整えております。監査役は取締役会に出席するほか、経営会議等の社内重要会議に出席し、取締役の業務執行等を監視しております。また、会計監査人・内部監査部門・グループ各社の監査役と情報交換に努め、連携して当社及びグループ各社の監査の実効性を確保しております。

社外監査役の杉岡進一氏は、ネスレベンディング㈱の元代表取締役社長であり、久保令治氏は(有)九州国際総合事務所の代表であり、深作仁一氏は大和リ－ス㈱の取締役上席執行役員（経理・財務担当、情報システム担当）であります。なお、当社と社外監査役３名との間に人的関係、資本的関係及び取引関係その他の利害関係はありません。また、当社とネスレベンディング㈱及び(有)九州国際総合事務所並びに大和リ－ス㈱との間に特別の関係はありません。

また、杉岡進一氏は社外監査役として独立性を有し、一般株主との利益相反が生ずるおそれがないことから独立役員に指定いたしました。

なお、社外取締役及び社外監査役を選任するための提出会社からの独立性に関する基準または方針等については、特に定めておりませんが、その選任に当たっては、社外での実績や豊富な経験などから十分な見識を有する外部者を選任することとしております。

役員の報酬等

(イ) 提出会社の役員区分ごとの報酬等の総額、報酬等の種類別の総額及び対象となる役員の員数

役員区分	報酬等の総額(千円)	報酬等の種類別の総額(千円)			対象となる 役員の員数 (名)
		基本報酬	賞与	役員退職慰労 引当金	
取締役 (社外取締役を除く。)	103,280	99,080	2,600	1,600	3
監査役 (社外監査役を除く。)	5,774	4,800	564	410	1
社外役員	1,533	1,200	233	100	2

- (注) １．取締役の報酬等の額には、使用人兼務取締役の使用人分給与は含まれておりません。また、使用人兼務役員の使用人給与で重要なものではありません。
- ２．取締役の報酬限度額は、平成19年６月28日開催の第67期定時株主総会で２億円以内（但し使用人分給与は含まない）、監査役の報酬限度額は、平成４年６月26日開催の第52期定時株主総会で２千万円以内と決議いただいております。

(ロ) 役員報酬の決定方法

役員報酬は株主総会の決議によって報酬総額を定め、その範囲内で代表取締役が決定しております。

(ハ) 提出会社の役員ごとの連結報酬等の総額等

連結報酬等の総額が1億円以上である者が存在しないため、記載しておりません。

株式の保有状況

(イ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式

銘柄数 3 銘柄

貸借対照表計上額の合計額 5,029千円

(ロ) 保有目的が純投資目的以外の目的である投資株式の銘柄、保有区分、株式数、貸借対照表計上額及び保有目的

(前事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株)広島銀行	10,000	3,780	取引先金融機関との強固な信頼関係を保持するため
第一生命保険(株)	3	342	取引先金融機関との強固な信頼関係を保持するため

(注) 当該銘柄については、投資有価証券勘定に計上している株式数及び貸借対照表計上額を記載しております。

(当事業年度)

特定投資株式

銘柄	株式数 (株)	貸借対照表計上額 (千円)	保有目的
株)広島銀行	10,000	4,600	取引先金融機関との強固な信頼関係を保持するため
第一生命保険(株)	3	379	取引先金融機関との強固な信頼関係を保持するため

(注) 当該銘柄については、投資有価証券勘定に計上している株式数及び貸借対照表計上額を記載しております。

(ハ) 保有目的が純投資目的である投資株式

該当する株式は保有しておりません。

会計監査の状況

会計監査人である監査法人啓和会計事務所とは監査契約に基づき、会社法及び金融商品取引法に基づく会計監査を受けております。なお、当社と同監査法人または業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はありません。

業務を執行した公認会計士の氏名	7年を超える場合の継続監査年数
森 脇 淳	—
嶋 矢 剛	—

監査業務に係る補助者の構成	人 数
公認会計士	3 人

取締役の定数

当社の取締役は10名以内とする旨を定款に定めております。

取締役の選任の決議要件

当社の取締役の選任決議は、議決権を行使することができる株主の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の過半数をもって行う旨、また、累積投票によらないものとする旨を定款に定めております。

自己の株式の取得の決定機関

当社は、機動的な資本政策の遂行を可能にするために、会社法第165条第2項の規定により、取締役会の決議によって同条第1項に定める市場取引等により自己の株式を取得することができる旨を定款に定めております。

株主総会の特別決議要件

当社は、会社法第309条第2項に定める株主総会の特別決議要件は、議決権を行使することができる株主の議決権の3分の1以上を有する株主が出席し、その議決権の3分の2以上をもって行う旨を定款に定めております。これは、株主総会における特別決議の定足数を緩和することにより、株主総会の円滑な運営を行うことを目的とするものであります。

取締役及び監査役の責任免除

当社は、職務を遂行するにあたり、期待される役割を十分に発揮できるよう、会社法第426条第1項の規定により、任務を怠ったことによる取締役（取締役であった者を含む。）及び監査役（監査役であった者を含む。）の損害賠償責任を、法令の限度において、取締役会の決議によって免除することができる旨を定款に定めております。

また、社外監査役との間に、会社法第427条第1項の規定により、任務を怠ったことによる損害賠償責任を限定する契約を締結することができる旨を定款に定めております。ただし、当該契約に基づく責任の限度額は、法令が規定する額としております。

剰余金の配当等の決定機関

当社は、剰余金の配当等について、株主への機動的な利益還元ができるよう、会社法第459条第1項各号に定める事項については、法令に別段の定めのある場合を除き、株主総会の決議によらず取締役会の決議により定める旨を定款に定めております。

(2) 【監査報酬の内容等】

【監査公認会計士等に対する報酬の内容】

区分	前連結会計年度		当連結会計年度	
	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)	監査証明業務に基づく報酬(千円)	非監査業務に基づく報酬(千円)
提出会社	28,000	—	28,000	—
連結子会社	—	—	—	—
計	28,000	—	28,000	—

【その他重要な報酬の内容】

該当事項はありません。

【監査公認会計士等の提出会社に対する非監査業務の内容】

該当事項はありません。

【監査報酬の決定方針】

監査日数等を勘案したうえで決定しております。

第5 【経理の状況】

1 連結財務諸表及び財務諸表の作成方法について

- (1) 当社の連結財務諸表は、「連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和51年大蔵省令第28号。)に基づいて作成しております。
- (2) 当社の財務諸表は、「財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(昭和38年大蔵省令第59号。以下財務諸表等規則という。)に基づいて作成しております。

2 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、連結会計年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)及び事業年度(平成24年4月1日から平成25年3月31日まで)の連結財務諸表及び財務諸表について、監査法人啓和会計事務所により監査を受けております。

なお、当社の監査人は次のとおり交代しております。

前々連結会計年度の連結財務諸表及び前々事業年度の財務諸表 聖橋監査法人

前連結会計年度の連結財務諸表及び前事業年度の財務諸表 監査法人啓和会計事務所

臨時報告書に記載した事項は次のとおりです。

(1) 異動に係る監査公認会計士等の名称

聖橋監査法人

監査法人啓和会計事務所

(2) 異動年月日 平成23年6月29日

(3) 監査公認会計士等であった者が監査公認会計士等でなくなった場合

異動監査公認会計士等が直近において監査公認会計士等となった年月日

平成20年6月27日

異動監査公認会計士等が直近3年間に作成した監査報告書等における意見等に関する事項

該当事項はありません。

(4) 異動の決定又は異動に至った理由及び経緯

当社の会計監査人である聖橋監査法人は、平成23年6月29日開催の第71期定時株主総会の

終結の時をもって任期満了により退任されますので、その後任として監査法人啓和会計事務所

所を会計監査人に選任するものであります。

(5) 上記(4)の理由及び経緯に対する監査報告書等又は内部統制監査報告書の記載事項に係る異

動監査公認会計士等の意見

特段の意見はない旨の回答を得ております。

3 連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みについて

当社は、連結財務諸表等の適正性を確保するための特段の取組みを行っております。具体的には、会計基準等の内容や変更等を適時適切に把握し、的確に対応出来るようにするため、監査法人及び各種団体の主催する講習会に参加する等積極的な情報収集活動に努めております。

また、会計基準の内容又はその変更等についての意見発信及び普及・コミュニケーションを行う組織・団体への加入を検討中であります。

1 【連結財務諸表等】
 (1) 【連結財務諸表】
 【連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4 2,578,207	4 912,784
受取手形及び売掛金	7 470,955	7 508,746
商品及び製品	65,192	92,472
仕掛品	145,494	135,337
原材料及び貯蔵品	81,194	128,409
繰延税金資産	7,678	11,294
その他	322,015	239,350
貸倒引当金	11,114	11,255
流動資産合計	3,659,624	2,017,139
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	4 2,124,354	4 2,063,599
機械装置及び運搬具（純額）	265,469	438,826
工具、器具及び備品（純額）	240,616	270,205
土地	3, 4 3,753,074	3, 4 3,760,856
リース資産（純額）	35,730	21,438
建設仮勘定	23,329	3,763
有形固定資産合計	1 6,442,574	1 6,558,689
無形固定資産		
のれん	6 238,102	6 209,384
その他	13,225	12,633
無形固定資産合計	251,328	222,017
投資その他の資産		
投資有価証券	2 48,126	2 62,078
繰延税金資産	7,880	5,177
その他	195,149	220,493
貸倒引当金	12,959	13,459
投資その他の資産合計	238,196	274,290
固定資産合計	6,932,099	7,054,996
資産合計	10,591,724	9,072,135

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	7 324,647	7 346,454
1年内償還予定の社債	100,000	40,000
短期借入金	4 1,302,101	4 475,272
1年内返済予定の長期借入金	4 1,110,440	4 475,422
リース債務	19,240	29,686
未払法人税等	135,586	118,523
繰延税金負債	118	2,457
製品保証引当金	880	90
その他	4 419,668	4 419,969
流動負債合計	3,412,683	1,907,876
固定負債		
社債	300,000	120,000
長期借入金	4 3,221,485	4 3,238,926
リース債務	22,509	35,504
繰延税金負債	81,753	90,659
退職給付引当金	44,569	46,803
役員退職慰労引当金	353,127	355,584
受入保証金	4 487,845	4 444,611
未払退職金	5 371,131	5 330,229
再評価に係る繰延税金負債	3 246,776	3 246,776
その他	7,020	5,373
固定負債合計	5,136,219	4,914,469
負債合計	8,548,903	6,822,346
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,052,850	1,052,850
資本剰余金	236,436	236,436
利益剰余金	410,308	510,740
自己株式	3,609	3,774
株主資本合計	1,695,984	1,796,251
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	6,569	340
土地再評価差額金	3 445,637	3 445,637
為替換算調整勘定	92,241	8,230
その他の包括利益累計額合計	346,826	453,527
少数株主持分	10	10
純資産合計	2,042,821	2,249,789
負債純資産合計	10,591,724	9,072,135

【連結損益計算書及び連結包括利益計算書】
 【連結損益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上高	5,557,104	5,636,595
売上原価	1, 2 3,937,585	1, 2 4,180,551
売上総利益	1,619,518	1,456,044
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	33,530	22,031
広告宣伝費	9,186	4,981
貸倒引当金繰入額	-	1,459
役員報酬	120,324	122,621
給料	312,450	280,558
退職給付費用	7,284	5,997
役員退職慰労引当金繰入額	5,831	2,456
減価償却費	18,490	19,791
租税公課	42,080	40,288
支払手数料	78,879	66,839
のれん償却額	28,718	28,718
その他	2 320,704	2 343,875
販売費及び一般管理費合計	977,481	939,618
営業利益	642,037	516,425
営業外収益		
受取利息	709	1,882
為替差益	2,242	-
保険解約返戻金	8,964	-
償却債権取立益	-	6,000
受取手数料	1,886	3,421
その他	5,894	4,475
営業外収益合計	19,698	15,779
営業外費用		
支払利息	124,681	103,778
為替差損	-	7,318
その他	15,329	22,775
営業外費用合計	140,011	133,873
経常利益	521,724	398,332

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
特別利益		
固定資産売却益	3 1,125	3 1,013
収用補償金	4 78,189	-
保険差益	5 41,276	-
特別利益合計	120,591	1,013
特別損失		
固定資産除却損	6 12,795	6 7,496
訴訟関連損失	7 4,500	7 1,294
災害による損失	-	8 1,267
その他	1,039	-
特別損失合計	18,335	10,057
税金等調整前当期純利益	623,981	389,287
法人税、住民税及び事業税	142,975	177,848
法人税等調整額	3,828	6,681
法人税等合計	139,146	184,530
少数株主損益調整前当期純利益	484,834	204,756
少数株主利益又は少数株主損失 ()	0	0
当期純利益	484,833	204,757

【連結包括利益計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
少数株主損益調整前当期純利益	484,834	204,756
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	2,231	6,228
土地再評価差額金	34,966	-
為替換算調整勘定	45,218	100,471
その他の包括利益合計	¹ 12,482	¹ 106,700
包括利益	472,351	311,457
(内訳)		
親会社株主に係る包括利益	472,351	311,457
少数株主に係る包括利益	0	0

【連結株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,052,850	1,052,850
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,052,850	1,052,850
資本剰余金		
当期首残高	236,436	236,436
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	236,436	236,436
利益剰余金		
当期首残高	125,505	410,308
当期変動額		
剰余金の配当	-	104,324
当期純利益	484,833	204,757
土地再評価差額金の取崩	50,979	-
当期変動額合計	535,813	100,432
当期末残高	410,308	510,740
自己株式		
当期首残高	3,498	3,609
当期変動額		
自己株式の取得	111	165
当期変動額合計	111	165
当期末残高	3,609	3,774
株主資本合計		
当期首残高	1,160,282	1,695,984
当期変動額		
剰余金の配当	-	104,324
当期純利益	484,833	204,757
土地再評価差額金の取崩	50,979	-
自己株式の取得	111	165
当期変動額合計	535,702	100,267
当期末残高	1,695,984	1,796,251

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	4,338	6,569
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	2,231	6,228
当期変動額合計	2,231	6,228
当期末残高	6,569	340
土地再評価差額金		
当期首残高	461,650	445,637
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16,012	-
当期変動額合計	16,012	-
当期末残高	445,637	445,637
為替換算調整勘定		
当期首残高	47,023	92,241
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	45,218	100,471
当期変動額合計	45,218	100,471
当期末残高	92,241	8,230
その他の包括利益累計額合計		
当期首残高	410,289	346,826
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	63,462	106,700
当期変動額合計	63,462	106,700
当期末残高	346,826	453,527
少数株主持分		
当期首残高	10	10
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	0	0
当期変動額合計	0	0
当期末残高	10	10
純資産合計		
当期首残高	1,570,581	2,042,821
当期変動額		
剰余金の配当	-	104,324
当期純利益	484,833	204,757
土地再評価差額金の取崩	50,979	-
自己株式の取得	111	165
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	63,462	106,700
当期変動額合計	472,239	206,967
当期末残高	2,042,821	2,249,789

【連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前当期純利益	623,981	389,287
減価償却費	227,201	262,801
のれん償却額	28,718	28,718
貸倒引当金の増減額（ は減少 ）	644	641
賞与引当金の増減額（ は減少 ）	4,173	-
製品保証引当金の増減額（ は減少 ）	390	790
退職給付引当金の増減額（ は減少 ）	8,166	44
役員退職慰労引当金の増減額（ は減少 ）	5,831	2,456
未払人件費の増減額（ は減少 ）	37,565	38,772
受取利息及び受取配当金	1,679	3,146
支払利息	124,681	103,778
固定資産除売却損益（ は益 ）	11,670	6,482
収用補償金	78,189	-
保険差益	41,276	-
訴訟関連損失	4,500	1,294
災害損失	1,039	-
売上債権の増減額（ は増加 ）	410,838	31,482
たな卸資産の増減額（ は増加 ）	178,949	62,522
未収消費税等の増減額（ は増加 ）	20,375	704
仕入債務の増減額（ は減少 ）	150,138	18,313
未払消費税等の増減額（ は減少 ）	55,583	50,832
長期受入保証金の増減額（ は減少 ）	51,881	43,234
未払費用の増減額（ は減少 ）	72,424	30,686
その他	126,494	52,232
小計	1,136,679	666,661
利息及び配当金の受取額	1,517	3,194
利息の支払額	120,348	100,994
訴訟関連損失の支払額	4,500	1,294
法人税等の支払額	41,976	195,582
法人税等の還付額	1,330	-
営業活動によるキャッシュ・フロー	972,702	371,985

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
投資活動によるキャッシュ・フロー		
定期預金の払戻による収入	322,365	418,471
定期預金の預入による支出	387,397	250,428
有形固定資産の売却による収入	2,215	1,365
有形固定資産の取得による支出	157,479	239,260
無形固定資産の取得による支出	-	1,977
投資有価証券の取得による支出	3,974	4,072
その他	1,413	7,188
投資活動によるキャッシュ・フロー	222,857	83,091
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額（ は減少 ）	124,421	833,716
長期借入れによる収入	1,100,000	2,500,000
長期借入金の返済による支出	1,057,470	3,138,613
社債の発行による収入	200,000	-
社債の償還による支出	100,000	240,000
ファイナンス・リース債務の返済による支出	24,793	19,383
配当金の支払額	-	102,686
自己株式の取得による支出	111	165
財務活動によるキャッシュ・フロー	6,796	1,834,565
現金及び現金同等物に係る換算差額	12,479	48,291
現金及び現金同等物の増減額（ は減少 ）	730,569	1,497,379
現金及び現金同等物の期首残高	1,567,240	2,297,810
現金及び現金同等物の期末残高	₁ 2,297,810	₁ 800,430

【注記事項】

(連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項)

1 連結の範囲に関する事項

子会社3社のうち、E P E (株)、E P E (Thailand) Co., LTD. の2社を連結の範囲に含め、(株)テクノスサンキューを連結の範囲から除外しております。

非連結子会社は小規模会社であり、全体として、総資産、売上高、当期純損益の持分相当額、利益剰余金の持分相当額等は、いずれも連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、連結の範囲から除外しております。

2 持分法の適用に関する事項

非連結子会社である(株)テクノスサンキューは小規模会社であり、全体として、当期純損益の持分相当額、利益剰余金の持分相当額等は、連結財務諸表に重要な影響を及ぼしていないため、持分法を適用しておりません。

3 連結子会社の事業年度等に関する事項

連結子会社のうち、E P E (Thailand) Co., LTD. の決算日は12月31日であります。連結財務諸表の作成に当たっては、同社の決算日現在の財務諸表を使用し、連結決算日との間に生じた重要な取引については、連結上必要な調整を行っております。

4 会計処理基準に関する事項

(1) 重要な資産の評価基準及び評価方法

(イ) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は、全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

(ロ) たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は、原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

製品・仕掛品

駐車場関連

主として個別法

電子機器

主として個別法

電子部品

主として総平均法

原材料

駐車場関連

主として最終仕入原価法

電子機器

主として移動平均法

電子部品

主として移動平均法

貯蔵品

最終仕入原価法

(2) 重要な減価償却資産の減価償却の方法

(イ)有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、当社及び国内連結子会社で平成10年4月1日以降に取得した建物（当社の東京本社建物附属設備の一部及び当社の東京本社構築物を含む）については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物…… 3年～39年

機械装置及び運搬具 2年～17年

工具、器具及び備品 2年～20年

また、在外連結子会社は、当該国の会計基準に基づく定額法を採用しております。

(ロ)無形固定資産（リース資産を除く）

定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

ソフトウェア（自社利用目的）…… 5年（社内における利用可能期間）

(ハ)リース資産

所有権移転ファイナンス・リース取引に係るリース資産

自己所有の固定資産に適用する減価償却方法と同一の方法を採用しております。

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前のものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

(3) 重要な引当金の計上基準

(イ)貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(ロ)製品保証引当金

販売済製品の補修の費用等に充てるため、過去の実績を勘案し、将来の発生見込額を計上しております。

(ハ)退職給付引当金

連結子会社において、従業員の退職給付に備えるため、当連結会計年度末における退職給付債務の見込額に基づき、当連結会計年度末において発生していると認められる額を計上しております。なお、退職給付債務の算定は簡便法によっております。

(ニ)役員退職慰労引当金

当社及び国内連結子会社において、役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく当連結会計年度末要支給額を計上しております。

(4) 重要な外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、連結決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

なお、在外子会社の資産及び負債は、在外子会社の決算日の直物為替相場により円貨に換算し、収益及び費用は期中平均相場により円貨に換算し、換算差額は純資産の部における為替換算調整勘定に含めております。

(5) のれんの償却方法及び償却期間

のれん及び負ののれんの償却については、20年の均等償却を行っております。

(6) 連結キャッシュ・フロー計算書における資金の範囲

手許現金、随時引き出し可能な預金及び容易に換金可能であり、かつ、価値の変動について僅少なりリスクしか負わない取得日から3ヶ月以内に償還期限の到来する短期投資からなっております。

(7) その他連結財務諸表作成のための重要な事項

(イ)消費税等の会計処理の方法

税抜方式によっております。

(ロ)連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

[次へ](#)

(連結貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額及び減損損失累計額

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
有形固定資産	4,901,834千円	5,123,659千円

2 非連結子会社に対するものは、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
投資その他の資産		
投資有価証券(株式)	10,000千円	10,000千円

3 土地の再評価

当社は、土地の再評価に関する法律(平成10年 3 月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法...土地の再評価に関する法律施行令(平成10年 3 月31日公布政令第119号)第 2 条第 4 号に定める「地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額」に基づき算出しております。

再評価を行った年月日.....平成13年 3 月31日

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
再評価を行った土地の当連結会計年度末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	113,043千円	161,034千円

4 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
現金及び預金	72,000千円	72,000千円
建物	1,378,197千円	1,244,907千円
土地	3,250,411千円	2,611,666千円
合計	4,700,609千円	3,928,574千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
その他流動負債	39,120千円	39,120千円
短期借入金	1,165,200千円	742,000千円
1年内返済予定の長期借入金	448,584千円	314,592千円
長期借入金	2,237,063千円	2,325,991千円
受入保証金	316,260千円	277,140千円
合計	4,206,227千円	3,698,843千円

上記の他、連結子会社である E P E (Thailand)Co.,LTD. において、タイ国内の地方電力公社からの電気供給及び当座貸越契約に対する保証として、前連結会計年度に3,936千円の定期預金及び885千円の普通預金を、当連結会計年度に4,839千円の定期預金及び1,088千円の普通預金を担保に差入れております。

- 5 当社は適格退職年金制度を採用していましたが、平成13年1月12日を基準日として、これを廃止し、基準日時点での退職金要支給額と年金資産の配分額との差額を退職日後1年間据置10年間分割支払とすることとしたため、当該未払額を「未払退職金」として固定負債に計上しております。

6 のれん及び負ののれんの表示

のれん及び負ののれんは、相殺表示しております。相殺前の金額は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
のれん	279,601千円	247,809千円
負ののれん	41,499千円	38,425千円
差 引	238,102千円	209,384千円

- 7 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当連結会計年度末が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
受取手形	1,877千円	9,480千円
支払手形	6,013千円	5,812千円

(連結損益計算書関係)

1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
売上原価	34,700千円	15,398千円

2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は次のとおりであります。

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
一般管理費	13,161千円	13,615千円
当期製造費用	735千円	203千円
合計	13,896千円	13,818千円

3 固定資産売却益

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
機械装置及び運搬具	1,125千円	113千円
工具、器具及び備品	— 千円	899千円
合計	1,125千円	1,013千円

4 収用補償金

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

収用補償金は、当社の東京本社所有土地の一部収用に伴い発生した土地売却益及び物件移転補償差益であります。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

5 保険差益

前連結会計年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

タイで発生した洪水による保険金額131,769千円から、固定資産及びたな卸資産の滅失損失の額90,492千円を控除したものであります。

当連結会計年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

該当事項はありません。

6 固定資産除却損

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物及び構築物	3,823千円	4,525千円
機械装置及び運搬具	7,150千円	50千円
工具、器具及び備品	1,821千円	2,920千円
合計	12,795千円	7,496千円

7 訴訟関連損失

前連結会計年度（自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日）

訴訟に起因する和解金であります。

当連結会計年度（自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日）

訴訟に起因する和解金であります。

8 災害による損失

前連結会計年度（自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日）

該当事項はありません。

当連結会計年度（自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日）

タイで発生した洪水による損失であります。

（連結包括利益計算書関係）

1 その他の包括利益に係る組替調整額及び税効果額

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
その他有価証券評価差額金		
当期発生額	3,154千円	9,879千円
税効果額	923千円	3,650千円
その他有価証券評価差額金	2,231千円	6,228千円
土地再評価差額金		
税効果額	34,966千円	— 千円
為替換算調整勘定		
当期発生額	45,218千円	100,471千円
その他の包括利益合計額	12,482千円	106,700千円

(連結株主資本等変動計算書関係)

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	8,038,100	—	—	8,038,100

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	11,947	979	—	12,926

(注)普通株式の増加979株は、単元未満株式の買取によるものであります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成24年 6 月27日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	64,201	8	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月28日

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

1 発行済株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	8,038,100	—	—	8,038,100

2 自己株式に関する事項

株式の種類	当連結会計年度期首	増加	減少	当連結会計年度末
普通株式(株)	12,926	993	—	13,919

(注)普通株式の増加993株は、単元未満株式の買取によるものであります。

3 新株予約権等に関する事項

該当事項はありません。

4 配当に関する事項

(1) 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり配当額 (円)	基準日	効力発生日
平成24年 6 月27日 定時株主総会	普通株式	64,201	8	平成24年 3 月31日	平成24年 6 月28日
平成24年11月13日 取締役会	普通株式	40,123	5	平成24年 9 月30日	平成24年12月17日

(2) 基準日が当連結会計年度に属する配当のうち、配当の効力発生日が翌連結会計年度となるもの

決議	株式の種類	配当の原資	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日
平成25年 6 月26日 定時株主総会	普通株式	利益剰余金	48,145	6	平成25年 3 月31日	平成25年 6 月27日

(連結キャッシュ・フロー計算書関係)

1 現金及び現金同等物の期末残高と連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
現金及び預金	2,578,207千円	912,784千円
預入期間が 3ヶ月を超える定期預金	280,397千円	112,354千円
現金及び現金同等物	2,297,810千円	800,430千円

[次へ](#)

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1)所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

E P E (Thailand)Co.,LTD.における生産設備（機械装置及び運搬具）であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

(2)所有権移転外ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

当社の東京本社の電子機器部品事業における什器備品であります。

リース資産の減価償却の方法

連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項「(2)重要な減価償却資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び減損損失累計額相当額及び期末残高相当額
 前連結会計年度(平成24年3月31日)

	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	無形固定資産 その他 (ソフトウェア)	合計
取得価額相当額	31,449千円	24,344千円	1,355千円	57,149千円
減価償却累計額相当額及 び減損損失累計額相当額	22,369千円	18,184千円	1,355千円	41,909千円
期末残高相当額	9,079千円	6,159千円	— 千円	15,239千円

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	機械装置 及び運搬具	工具、器具 及び備品	無形固定資産 その他 (ソフトウェア)	合計
取得価額相当額	— 千円	388千円	— 千円	388千円
減価償却累計額相当額及 び減損損失累計額相当額	— 千円	367千円	— 千円	367千円
期末残高相当額	— 千円	21千円	— 千円	21千円

(注) 取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、支払利
 子込み法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定期末残高

未経過リース料期末残高相当額

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
1 年内	6,138千円	21千円
1 年超	9,101千円	— 千円
合計	15,239千円	21千円

リース資産減損勘定期末残高

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
	— 千円	— 千円

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

支払リース料、減価償却費相当額、リ - ス資産減損勘定の取崩額及び減損損失

	前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
支払リース料	10,056千円	1,628千円
減価償却費相当額	10,056千円	1,628千円
リ - ス資産減損勘定の取崩額	— 千円	— 千円

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
1 年内	3,403千円	1,005千円
1 年超	4,394千円	4,022千円
合計	7,797千円	5,028千円

(金融商品関係)

1 金融商品の状況に関する事項

(1) 金融商品に対する取組方針

当社グループは、資金運用に関しては預金等による元本が保証されているものを中心としております。また、短期的運転資金や長期にわたる設備資金は銀行借入を中心に調達する方針であります。また、デリバティブ取引についてはヘッジ手段として用いる場合を除き原則行いません。

(2) 金融商品の内容及びそのリスク並びにリスク管理体制

受取手形及び売掛金は、顧客の信用リスクに晒されております。当該リスクに関しては取引先ごとの期日管理及び残高管理を毎月行っております。また、投資有価証券は主として株式であり、市場価格の変動リスクに晒されております。当該リスクに関しては、上場株式の四半期毎の時価を把握して管理しております。

支払手形及び買掛金は、すべて6ヶ月以内の支払期日であります。借入金の一部は、変動金利であるため金利の変動リスクに晒されております。また、受入保証金は主に当社所有の賃貸用不動産によるものであります。

(3) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価には、市場価格に基づく価額のほか、市場価格がない場合には合理的に算定された価額が含まれております。当該価額の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件等を採用することにより、当該価額が変動することもあります。

2 金融商品の時価等に関する事項

連結貸借対照表計上額、時価及びこれらの差額については次のとおりであります。なお、時価を把握することが極めて困難と認められるものは、次表には含めておりません（（注2）参照）。

前連結会計年度(平成24年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	2,578,207	2,578,207	—
(2) 受取手形及び売掛金	470,955	470,955	—
(3) 投資有価証券	37,076	37,076	—
資産計	3,086,239	3,086,239	—
(1) 支払手形及び買掛金	324,647	324,647	—
(2) 短期借入金	1,302,101	1,302,101	—
(3) 社債 (1年以内償還予定の社債を含む)	400,000	400,000	—
(4) 長期借入金 (1年以内返済予定の長期借入金を含む)	4,331,925	4,327,520	4,404
(5) 受入保証金	257,572	261,263	3,691
負債計	6,616,246	6,615,533	712

当連結会計年度(平成25年3月31日)

	連結貸借対照表計上額 (千円)	時価 (千円)	差額 (千円)
(1) 現金及び預金	912,784	912,784	—
(2) 受取手形及び売掛金	508,746	508,746	—
(3) 投資有価証券	51,028	51,028	—
資産計	1,472,560	1,472,560	—
(1) 支払手形及び買掛金	346,454	346,454	—
(2) 短期借入金	475,272	475,272	—
(3) 社債 (1年以内償還予定の社債を含む)	160,000	160,000	—
(4) 長期借入金 (1年以内返済予定の長期借入金を含む)	3,714,348	3,732,300	17,951
(5) 受入保証金	218,452	223,518	5,066
負債計	4,914,528	4,937,546	23,018

(注1) 金融商品の時価の算定方法及び有価証券に関する事項

資産

(1) 現金及び預金、並びに(2) 受取手形及び売掛金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 投資有価証券

これらの時価については、株式は取引所の時価によっております。また、保有目的ごとの有価証券に関する注記については、「有価証券関係」注記を参照ください。

負債

(1) 支払手形及び買掛金並びに(2) 短期借入金

これらは短期間で決済されるため、時価は帳簿価額にほぼ等しいことから、当該帳簿価額によっております。

(3) 社債（一年内償還予定の社債を含む）

これらは変動金利によるもので、短期間で市場金利を反映しており、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため当該帳簿価額によっております。

(4) 長期借入金（一年内返済予定の長期借入金を含む）

変動金利によるものは、短期間で市場金利を反映しており、時価は帳簿価額と近似していると考えられるため当該帳簿価額によっております。

固定金利によるものは、一定の期間毎に区分した当該長期借入金の元利金の合計額を同様の借入において想定される利率で割り引いて現在価値を算定しております。

(5) 受入保証金

これらは同様の保証金を受け入れた場合に想定される利率で割り引いて算出する方法によっております。

(注2) 時価を把握することが極めて困難と認められる金融商品

区分	平成24年3月31日	平成25年3月31日
(1) 非上場株式	11,050	11,050
(2) 受入保証金（償還期限の定めのないもの）	269,393	265,279
(3) 未払退職金	371,131	330,229
合計	651,575	605,558

(1) 非上場株式

これらについては、市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから「(3) 投資有価証券」には含めておりません。

(2) 受入保証金

償還期限の定めがなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから帳簿価額によっております。

(3) 未払退職金

支払期限の定めがなく、時価を把握することが極めて困難と認められることから帳簿価額によっております。

(注3) 金銭債権の連結決算日後の償還予定額

前連結会計年度（平成24年3月31日）

	1年以内 (千円)	1年超 5年以内 (千円)	5年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	2,578,207	—	—	—
受取手形及び売掛金	470,955	—	—	—
合計	3,049,163	—	—	—

当連結会計年度（平成25年 3 月31日）

	1 年以内 (千円)	1 年超 5 年以内 (千円)	5 年超 10年以内 (千円)	10年超 (千円)
現金及び預金	912,784	—	—	—
受取手形及び売掛金	508,746	—	—	—
合計	1,421,531	—	—	—

（注 4）社債、長期借入金、リース債務及びその他有利子負債の連結決算日後の返済予定額
 前連結会計年度(平成24年 3 月31日)

	1 年以内 (千円)	1 年超 2 年以内 (千円)	2 年超 3 年以内 (千円)	3 年超 4 年以内 (千円)	4 年超 5 年以内 (千円)	5 年超 (千円)
短期借入金	1,302,101	—	—	—	—	—
社債	100,000	100,000	90,000	70,000	40,000	—
長期借入金	1,110,440	919,480	686,660	468,841	241,491	905,013
リース債務	19,240	15,006	7,503	—	—	—
受入保証金	39,120	39,120	39,120	39,120	39,120	61,972
合計	2,570,901	1,073,606	823,283	577,961	320,611	966,985

当連結会計年度(平成25年 3 月31日)

	1 年以内 (千円)	1 年超 2 年以内 (千円)	2 年超 3 年以内 (千円)	3 年超 4 年以内 (千円)	4 年超 5 年以内 (千円)	5 年超 (千円)
短期借入金	475,272	—	—	—	—	—
社債	40,000	40,000	40,000	40,000	—	—
長期借入金	475,422	465,772	446,804	407,752	383,286	1,535,312
リース債務	29,686	23,091	12,413	—	—	—
受入保証金	39,120	39,120	39,120	39,120	39,120	22,852
合計	1,019,501	567,983	538,337	446,912	422,406	1,558,164

(有価証券関係)

前連結会計年度(平成24年 3 月31日)

その他有価証券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	190	83	107
その他	7,484	4,695	2,789
小計	7,675	4,778	2,897
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	27,494	38,300	10,805
その他	1,905	2,305	399
小計	29,400	40,605	11,205
合計	37,076	45,384	8,307

当連結会計年度(平成25年 3 月31日)

その他有価証券

区分	連結貸借対照表計上額 (千円)	取得原価 (千円)	差額 (千円)
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えるもの			
株式	32,376	27,825	4,551
その他	7,418	4,695	2,723
小計	39,795	32,520	7,275
連結貸借対照表計上額が取得原価を超えないもの			
株式	9,061	14,631	5,570
その他	2,171	2,305	133
小計	11,233	16,936	5,703
合計	51,028	49,456	1,571

[前へ](#) [次へ](#)

(デリバティブ取引関係)

デリバティブ取引を利用していないため該当事項はありません。

(退職給付関係)

1.採用している退職給付制度の概要

当社及び国内連結子会社の退職給付制度は、中小企業退職金共済法に基づく中小企業退職金共済制度を採用しております。(国内連結子会社は一部退職一時金制度も併用しております。)

また、国外連結子会社は退職一時金制度及び確定拠出年金制度を採用しております。

なお、退職給付債務の算定にあたり、簡便法を採用しております。

2.退職給付債務に関する事項

項目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 退職給付債務(千円)	44,569	46,803
(2) 年金資産(千円)	—	—
(3) 退職給付引当金(千円)	44,569	46,803

3.退職給付費用に関する事項

項目	前連結会計年度 (自平成23年4月1日 至平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自平成24年4月1日 至平成25年3月31日)
(1) 勤務費用(千円)	5,755	186
(2) 確定拠出年金掛金(千円)	14,509	14,359
(3) 退職給付費用(千円)	20,265	14,545

(ストック・オプション等関係)

該当事項はありません。

[前へ](#) [次へ](#)

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
(繰延税金資産)		
繰越欠損金	13,040千円	20,208千円
たな卸資産評価損	81,007千円	83,224千円
減価償却費	10,518千円	10,145千円
減損損失	9,886千円	9,422千円
貸倒引当金	8,185千円	8,548千円
貸倒損失	4,289千円	4,289千円
退職給付引当金	13,044千円	12,991千円
役員退職慰労引当金	126,159千円	127,039千円
未払費用	13,690千円	17,945千円
長期未払金	53,776千円	46,577千円
未実現利益消去	10,483千円	4,770千円
その他	15,855千円	13,282千円
繰延税金資産小計	359,938千円	358,446千円
評価性引当額	305,827千円	313,383千円
繰延税金資産合計	54,110千円	45,063千円
(繰延税金負債)		
連結子会社の全面時価評価法 適用に伴う評価差額	108,707千円	108,707千円
海外子会社の留保利益	— 千円	2,420千円
のれん	10,849千円	9,419千円
その他	867千円	1,163千円
繰延税金負債合計	120,423千円	121,709千円
繰延税金負債の純額	66,313千円	76,646千円
再評価に係る繰延税金負債	246,776千円	246,776千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前連結会計年度 (平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (平成25年 3 月31日)
法定実効税率	40.7%	38.0%
(調整)		
住民税均等割	0.6%	0.9%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.3%	0.6%
のれん償却額	1.9%	2.4%
子会社の実効税率の差異	0.6%	1.0%
評価性引当額の増減	22.2%	1.9%
海外子会社からの受取配当に係る 源泉税金損金不算入	0.2%	— %
未実現利益に係る税効果未認識	0.5%	0.1%
その他	0.9%	2.7%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	22.3%	47.4%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(賃貸等不動産関係)

当社では、東京都及び福岡県その他の地域において、賃貸用の商業施設及びオフィスビル（土地を含む。）を有しております。なお、賃貸施設の一部については、当社が使用しているため、賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産としております。

また、当該賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する連結貸借対照表計上額、期中増減額及び時価は以下のとおりであります。

（単位：千円）

			前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
賃貸等不動産	連結貸借対照表計上額	期首残高	1,945,926	1,917,902
		期中増減額	28,023	24,631
		期末残高	1,917,902	1,893,271
	期末時価		2,796,509	2,726,173
賃貸等不動産として 使用される部分 を含む不動産	連結貸借対照表計上額	期首残高	2,201,210	2,073,746
		期中増減額	127,464	32,833
		期末残高	2,073,746	2,040,913
	期末時価		1,957,364	1,988,287

（注）1 連結貸借対照表計上額は、取得原価から減価償却累計額を控除した金額であります。

2 期中増減額のうち、前連結会計年度の主な変動は、賃貸用の商業施設の一部の収用による売却による減少であります。

当連結会計年度の主な変動は、賃貸用の商業施設及びオフィスビルの減価償却による減少であります。

3 不動産の期末の時価は、主として、社外の不動産鑑定士による原則的時価算定に基づく金額、または社外の不動産鑑定士による直近の原則的時価算定に基づく金額を、適切に市場価格を反映していると考えられる指標等を用いて調整した金額であります。

また、賃貸等不動産及び賃貸等不動産として使用される部分を含む不動産に関する損益は、次のとおりであります。

（単位：千円）

		前連結会計年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
賃貸等不動産	賃貸収益	2,134,552	2,243,587
	賃貸費用	1,611,915	1,787,383
	差額	522,637	456,204
	その他	—	—
賃貸等不動産として 使用される部分 を含む不動産	賃貸収益	102,668	99,196
	賃貸費用	68,497	66,115
	差額	34,171	33,080
	その他	—	—

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

1 報告セグメントの概要

当社の事業は、製品・サービス別のセグメントから構成されており、「駐車場運営事業」、「駐車場機器事業」、「電子機器部品事業」及び「不動産賃貸事業」の4つを報告セグメントとしております。

当社の報告セグメントは、当社の構成単位のうち分離された財務情報が入手可能であり、取締役会が、経営資源の配分を決定及び業績を評価するために、定期的に検討を行う対象となっております。

「駐車場運営事業」は、時間貸駐車場等の管理運営を行っております。「駐車場機器事業」は、駐車場に設置されるコインパーキング装置等を製造販売しております。「電子機器部品事業」は、放送用・医療用モニタテレビ、電算機用CRTディスプレイ、ソケット、コネクタ等を製造販売しております。「不動産賃貸事業」は、商業施設及びオフィスビルの賃貸業を行っております。

2 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額の算定方法

報告されている事業セグメントの会計処理の方法は、「連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項」における記載と概ね同一であります。

セグメント間の内部収益及び振替高は市場実勢価格に基づいております。

3 報告セグメントごとの売上高、利益又は損失、資産、その他の項目の金額に関する情報

前連結会計年度（自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	駐車場運営 事業	駐車場機器 事業	電子機器部 品事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	1,914,324	1,556,566	1,623,939	325,324	5,420,154	136,949	5,557,104
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	-	-	-	-	-	-
計	1,914,324	1,556,566	1,623,939	325,324	5,420,154	136,949	5,557,104
セグメント利益 又は損失()	370,089	325,075	147,631	178,192	1,020,989	45,751	975,237
セグメント資産	1,491,442	475,742	2,697,072	2,256,677	6,920,935	110,526	7,031,461
その他の項目							
減価償却費	81,729	5,244	51,189	56,357	194,521	18,506	213,027
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	134,320	-	28,301	-	162,621	39,209	201,830

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグリ事業等を含んでおります。

当連結会計年度（自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日）

(単位：千円)

	報告セグメント					その他 (注)	合計
	駐車場運営 事業	駐車場機器 事業	電子機器部 品事業	不動産賃貸 事業	計		
売上高							
外部顧客への売上高	2,026,636	1,585,692	1,390,785	325,540	5,328,654	307,941	5,636,595
セグメント間の内部売上 高又は振替高	-	4,628	-	-	4,628	-	4,628
計	2,026,636	1,590,320	1,390,785	325,540	5,333,282	307,941	5,641,223
セグメント利益 又は損失()	320,072	227,819	116,532	171,969	836,393	1,725	834,667
セグメント資産	1,592,955	509,048	2,798,686	2,197,390	7,098,080	125,603	7,223,683
その他の項目							
減価償却費	92,623	9,816	74,534	55,738	232,712	24,047	256,760
有形固定資産及び 無形固定資産の増加額	163,297	-	116,250	-	279,548	71,582	351,131

(注)「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、アグリ事業等を含んでおります。

4 報告セグメント合計額と連結財務諸表計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位：千円)

売上高	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	5,420,154	5,328,654
「その他」の区分の売上高	136,949	307,941
連結財務諸表の売上高	5,557,104	5,636,595

(単位：千円)

利益	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	1,020,989	836,393
「その他」の区分の損失()	45,751	1,725
セグメント間取引消去	-	4,628
全社費用(注)	333,199	313,613
連結財務諸表の営業利益	642,037	516,425

(注) 全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

(単位：千円)

資産	前連結会計年度	当連結会計年度
報告セグメント計	6,920,935	7,098,080
「その他」の区分の資産	110,526	125,603
全社資産(注)	3,560,263	1,848,452
連結財務諸表の資産合計	10,591,724	9,072,135

(注) 全社資産は、主に報告セグメントに帰属しない親会社での余資運用資金(現金及び預金)、長期投資資金(投資有価証券)等及び管理部門に係る資産等であります。

(単位：千円)

その他の項目	報告セグメント計		その他		調整額(注)		連結財務諸表計上額	
	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度	前連結会計年度	当連結会計年度
減価償却費	194,521	232,712	18,506	24,047	14,174	6,040	227,201	262,801
有形固定資産及び無形固定資産の増加額	162,621	279,548	39,209	71,582	7,221	731	209,051	351,862

(注) 1 減価償却費の調整額は、管理部門に係る減価償却費であります。

2 有形固定資産及び無形固定資産の増加額の調整額は、管理部門に係る設備投資であります。

【関連情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア	その他	合計
4,955,414	585,394	16,294	5,557,104

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 本国以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は、次のとおりであります。

アジアタイ、中国、ベトナム

その他の地域ポルトガル、アメリカ、南アフリカ

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため記載を省略しております。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

1 製品及びサービスごとの情報

セグメント情報に同様の情報を開示しているため、記載を省略しております。

2 地域ごとの情報

(1) 売上高

(単位：千円)

日本	アジア	その他	合計
5,086,901	540,143	9,551	5,636,595

(注) 1 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

2 本国以外の区分に属する主な国又は地域の内訳は、次のとおりであります。

アジアタイ、中国、フィリピン

その他の地域ポルトガル、アメリカ、スウェーデン

(2) 有形固定資産

本邦に所在している有形固定資産の金額が連結貸借対照表の有形固定資産の金額の90%を超えるため、記載を省略しております。

3 主要な顧客ごとの情報

連結損益計算書の売上高の10%以上を占める顧客が存在しないため記載を省略しております。

【報告セグメントごとの固定資産の減損損失に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

該当事項はありません。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

該当事項はありません。

【報告セグメントごとののれんの償却額及び未償却残高に関する情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	全社・消去	合計
	駐車場運営 事業	駐車場機器 事業	電子機器部 品事業	不動産賃貸 事業	計			
(のれん)								
当期償却額	11,374	17,939	2,478	-	31,792	-	-	31,792
当期末残高	95,507	150,635	33,458	-	279,601	-	-	279,601
(負ののれん)								
当期償却額	-	-	3,074	-	3,074	-	-	3,074
当期末残高	-	-	41,499	-	41,499	-	-	41,499

(注) 平成22年 4 月 1 日前に行われた企業結合等により発生した負ののれんがあり、のれんと相殺しております。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

(単位：千円)

	報告セグメント					その他	全社・消去	合計
	駐車場運営 事業	駐車場機器 事業	電子機器部 品事業	不動産賃貸 事業	計			
(のれん)								
当期償却額	11,374	17,939	2,478	-	31,792	-	-	31,792
当期末残高	84,133	132,695	30,980	-	247,809	-	-	247,809
(負ののれん)								
当期償却額	-	-	3,074	-	3,074	-	-	3,074
当期末残高	-	-	38,425	-	38,425	-	-	38,425

(注) 平成22年 4 月 1 日前に行われた企業結合等により発生した負ののれんがあり、のれんと相殺しております。

【報告セグメントごとの負ののれん発生益に関する情報】

該当事項はありません。

【関連当事者情報】

前連結会計年度(自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 役員及び個人主要株主等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事 者との関 係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその 近親者が議決 権の過半数を 所有している 会社等	(有)西英工務店 (注2)	福岡県 中間市	3,000	左官工事業	—	工事委託先	工事委託 (注1)	211,699	買掛金	41,803
	㈱アルファメイト (注3)	福岡県 福岡市中央区	10,000	理美容機械器 具販売	—	土地の賃貸	賃貸料の受取 (注1)	11,914	未収入金	525

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりませんが、期末残高には含まれております。
 2. 当社役員の近親者が、議決権の72%を直接保有しております。
 3. 当社役員が、議決権の100%を直接保有しております。
 (取引条件及び取引条件の決定方針等)
 ・工事委託取引については、独立第三者間の取引条件を勘案して、その都度交渉の上、決定しております。
 ・賃貸料は、近隣の取引実勢等にもとづいて決定しております。

当連結会計年度(自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)

関連当事者との取引

(1) 連結財務諸表提出会社と関連当事者との取引

(ア) 役員及び個人主要株主等

種類	会社等の名称 又は氏名	所在地	資本金 又は 出資金 (千円)	事業の内容 又は職業	議決権等 の所有 (被所有) 割合	関連当事 者との関 係	取引の内容	取引金額 (千円)	科目	期末残高 (千円)
役員及びその 近親者が議決 権の過半数を 所有している 会社等	(有)西英工務店 (注2)	福岡県 中間市	3,000	左官工事業	—	工事委託先	工事委託 (注1)	275,805	買掛金	61,250
	㈱アルファメイト (注3)	福岡県 福岡市中央区	10,000	理美容機械器 具販売	—	土地の賃貸	賃貸料の受取 (注1)	18,439	未収入金	525

- (注) 1. 上記金額のうち、取引金額には消費税等は含まれておりませんが、期末残高には含まれております。
 2. 当社役員の近親者が、議決権の72%を直接保有しております。
 3. 当社役員が、議決権の100%を直接保有しております。
 (取引条件及び取引条件の決定方針等)
 ・工事委託取引については、独立第三者間の取引条件を勘案して、その都度交渉の上、決定しております。
 ・賃貸料は、近隣の取引実勢等にもとづいて決定しております。

(1株当たり情報)

1株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに1株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前連結会計年度 (平成24年3月31日)	当連結会計年度 (平成25年3月31日)
(1) 1株当たり純資産額	254.55円	280.37円
(算定上の基礎)		
連結貸借対照表上の純資産の部の合計額 (千円)	2,042,821	2,249,789
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	2,042,811	2,249,779
差額の主な内訳(千円) 少数株主持分	10	10
普通株式の発行済株式数(株)	8,038,100	8,038,100
普通株式の自己株式数(株)	12,926	13,919
1株当たり純資産額の算定に用いられた期 末の普通株式の数(株)	8,025,174	8,024,181

項目	前連結会計年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当連結会計年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
(2) 1株当たり当期純利益金額	60.41円	25.52円
(算定上の基礎)		
連結損益計算書上の当期純利益(千円)	484,833	204,757
普通株主に帰属しない金額(千円)	-	-
普通株式に係る当期純利益(千円)	484,833	204,757
普通株式の期中平均株式数(株)	8,025,498	8,024,518

(注) 潜在株式調整後1株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【連結附属明細表】

【社債明細表】

会社名	銘柄	発行年月日	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	利率 (%)	担保	償還期限
テクニカル電子株 (注) 1	第 8 回無担保 普通社債	平成21年 9月30日	50,000	—	0.53	無担保社債	平成26年 9月30日
テクニカル電子株 (注) 1	第 9 回無担保 普通社債	平成22年 9月30日	70,000	—	0.53	無担保社債	平成27年 9月30日
テクニカル電子株 (注) 1	第10回無担保 普通社債	平成23年 3月31日	80,000	—	0.53	無担保社債	平成28年 3月31日
テクニカル電子株 (注) 1	第11回無担保 普通社債	平成24年 3月30日	200,000	160,000 (40,000)	0.48	無担保社債	平成29年 3月31日
合計	—	—	400,000	160,000 (40,000)	—	—	—

(注) 1 「当期末残高」欄の()内書は、1年内償還予定の金額であります。

2 連結決算日後5年内における1年ごとの償還予定額の総額は次のとおりであります。

1年内 (千円)	1年超2年内 (千円)	2年超3年内 (千円)	3年超4年内 (千円)	4年超5年内 (千円)
40,000	40,000	40,000	40,000	—

3 テクニカル電子株の第8回、第9回及び第10回無担保普通社債につきましては、当連結会計年度において全額繰上償還を行っております。

【借入金等明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期末残高 (千円)	平均利率 (%)	返済期限
短期借入金	1,302,101	475,272	1.10	—
1年以内返済予定の長期借入金	1,110,440	475,422	1.25	—
1年以内返済予定のリース債務	19,240	29,686	6.02	—
長期借入金(1年以内返済予定のものを除く。)	3,221,485	3,238,926	1.29	平成26年12月2日～ 平成37年10月15日
リース債務(1年以内返済予定のものを除く。)	22,509	35,504	7.17	平成27年12月21日
其他有利子負債				
流動負債「その他」(1年内償還)	39,120	39,120	2.0	—
「受入保証金」(1年超償還)	218,452	179,332	2.0	平成30年10月31日
合計	5,933,349	4,473,264	—	—

(注) 1 「平均利率」については、借入金等の期末残高に対する加重平均利率を記載しております。

2 長期借入金、リース債務及び其他有利子負債(1年以内返済予定のものを除く。)の連結決算日後における返済予定額の総額は次のとおりであります。

区分	1年超2年内 (千円)	2年超3年内 (千円)	3年超4年内 (千円)	4年超5年内 (千円)	5年超 (千円)
長期借入金	465,772	446,804	407,752	383,286	1,535,312
リース債務	23,091	12,413	—	—	—
受入保証金	39,120	39,120	39,120	39,120	22,852

【資産除去債務明細表】

該当事項はありません。

(2) 【その他】

当連結会計年度における四半期情報等

(累計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	当連結会計年度
売上高 (千円)	1,287,299	2,700,040	4,125,117	5,636,595
税金等調整前四半期 (当期)純利益金額 (千円)	49,858	187,816	283,952	389,287
四半期(当期)純利 益金額 (千円)	16,665	96,314	154,996	204,757
1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	2.08	12.00	19.32	25.52

(会計期間)	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期
1株当たり四半期純 利益金額 (円)	2.08	9.93	7.31	6.20

当社は、平成25年6月25日の取締役会決議に基づき、同日付で本社土地建物の不動産売買契約を締結いたしました。

(イ)譲渡の理由

当社は、経営資源の有効活用を目的として財務体質の強化を図るため、以下の資産を譲渡するものであります。

(ロ)譲渡資産の内容

所在地 東京都大田区大森西一丁目9番12号

概要 本社土地 2,958.29m²

本社建物 5,570.23m²

帳簿価額 1,361,189千円 (平成25年3月31日現在)

譲渡価額 1,400,500千円

(ハ)譲渡先の名称 株式会社モリモト

(二)譲渡先との関係

譲渡先と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係、関連当事者として特記すべき事項はありません。

(ホ)譲渡の日程

取締役会決議 平成25年6月25日

契約締結 平成25年6月25日

物件引渡 平成25年9月30日(予定)

2【財務諸表等】

(1)【財務諸表】

【貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3 2,258,833	3 561,466
受取手形	5 77,591	5 78,017
売掛金	323,925	329,715
商品及び製品	62,417	82,513
仕掛品	61,754	68,810
原材料及び貯蔵品	70,093	93,968
前渡金	5,339	718
前払費用	146,222	157,175
繰延税金資産	7,343	10,959
その他	42,816	71,737
貸倒引当金	9,793	10,020
流動資産合計	3,046,545	1,445,062
固定資産		
有形固定資産		
建物（純額）	1, 3 1,862,306	1, 3 1,793,263
構築物（純額）	1 96,870	1 95,699
機械及び装置（純額）	1 100,758	1 156,919
車両運搬具（純額）	1 1,124	1 957
工具、器具及び備品（純額）	1 228,762	1 260,593
土地	1, 2, 3 3,234,657	1, 2, 3 3,234,657
リース資産（純額）	1 35,730	1 21,438
建設仮勘定	1 23,329	1 1,765
有形固定資産合計	5,583,539	5,565,293
無形固定資産		
のれん	28,543	26,429
ソフトウェア	1,835	375
その他	7,821	7,821
無形固定資産合計	38,200	34,626
投資その他の資産		
投資有価証券	14,563	15,620
関係会社株式	329,994	329,994
破産更生債権等	1,919	1,919
長期前払費用	400	-
差入保証金	171,928	189,192
繰延税金資産	7,442	4,873
その他	13,081	13,294
貸倒引当金	12,959	13,459
投資その他の資産合計	526,370	541,434
固定資産合計	6,148,110	6,141,354
資産合計	9,194,655	7,586,417

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形	5 88,073	5 70,746
買掛金	184,968	239,236
1年内償還予定の社債	100,000	40,000
短期借入金	3 895,200	3 72,000
1年内返済予定の長期借入金	3 1,005,014	3 361,196
リース債務	15,006	15,006
未払金	48,517	46,278
未払費用	78,525	109,209
未払法人税等	133,889	118,271
未払消費税等	55,583	1,515
前受金	31,074	24,523
預り金	150,025	159,626
製品保証引当金	880	90
その他	3 41,970	3 42,376
流動負債合計	2,828,727	1,300,077
固定負債		
社債	300,000	120,000
長期借入金	3 2,920,399	3 2,951,071
リース債務	22,509	7,503
受入保証金	3 487,845	3 444,611
未払退職金	4 371,131	4 330,229
役員退職慰労引当金	332,400	334,510
再評価に係る繰延税金負債	2 246,776	2 246,776
その他	1,720	573
固定負債合計	4,682,783	4,435,275
負債合計	7,511,510	5,735,352
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,052,850	1,052,850
利益剰余金		
利益準備金	-	10,433
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金	186,914	343,886
利益剰余金合計	186,914	354,319
自己株式	3,609	3,774
株主資本合計	1,236,154	1,403,394
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	1,352	2,032
土地再評価差額金	2 445,637	2 445,637
評価・換算差額等合計	446,990	447,669
純資産合計	1,683,144	1,851,064
負債純資産合計	9,194,655	7,586,417

【損益計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上高		
製品売上高	2,755,380	2,730,501
直営駐車場収入	1,911,456	2,017,244
売上高合計	4,666,837	4,747,745
売上原価		
製品売上原価		
製品期首たな卸高	142,217	62,417
当期製品製造原価	² 1,693,801	² 1,874,354
小計	1,836,019	1,936,771
他勘定振替高	³ 16,704	³ 17,930
製品期末たな卸高	62,417	82,513
製品売上原価	1,790,306	1,872,189
直営駐車場原価	1,429,874	1,575,911
売上原価合計	¹ 3,220,181	¹ 3,448,100
売上総利益	1,446,655	1,299,645
販売費及び一般管理費		
荷造運搬費	17,197	13,428
広告宣伝費	8,066	5,280
貸倒引当金繰入額	-	727
役員報酬	104,680	108,477
給料	235,062	222,723
退職給付費用	5,581	5,061
役員退職慰労引当金繰入額	2,120	2,110
福利厚生費	52,960	49,514
減価償却費	14,397	14,730
賃借料	49,097	50,028
租税公課	36,759	35,153
支払手数料	72,583	63,362
その他	² 166,037	² 180,885
販売費及び一般管理費合計	764,543	751,484
営業利益	682,111	548,160
営業外収益		
為替差益	-	1,296
受取配当金	10,572	695
受取手数料	1,886	3,421
その他	4,713	1,995
営業外収益合計	17,172	7,408
営業外費用		
支払利息	114,564	92,296
その他	8,512	6,844
営業外費用合計	123,076	99,140
経常利益	576,207	456,427

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
特別利益		
固定資産売却益	4 1,125	4 113
収用補償金	5 78,189	-
特別利益合計	79,314	113
特別損失		
固定資産除却損	6 12,795	6 7,496
訴訟関連損失	7 4,500	7 1,294
その他	1,039	-
特別損失合計	18,335	8,790
税引前当期純利益	637,187	447,751
法人税、住民税及び事業税	129,879	177,444
法人税等調整額	938	1,422
法人税等合計	128,940	176,021
当期純利益	508,246	271,729

【製造原価明細書】

		前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
材料費		615,014	36.7	666,757	35.4
外注加工費		652,685	38.9	826,135	43.9
労務費		227,588	13.6	193,317	10.3
経費		181,128	10.8	195,198	10.4
(うち減価償却費)		(91,634)		(86,792)	
当期総製造費用		1,676,415	100.0	1,881,410	100.0
仕掛品期首たな卸高		79,140		61,754	
合計		1,755,556		1,943,164	
仕掛品期末たな卸高		61,754		68,810	
当期製品製造原価		1,693,801		1,874,354	

【直営駐車場原価明細書】

		前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)		当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)	
区分	注記 番号	金額(千円)	構成比 (%)	金額(千円)	構成比 (%)
人件費		76,811	5.4	74,021	4.7
外注費		16,045	1.1	18,414	1.2
地代		1,191,064	83.3	1,309,423	83.0
減価償却費		83,206	5.8	88,047	5.6
その他経費	*	62,746	4.4	86,004	5.5
直営駐車場原価		1,429,874	100.0	1,575,911	100.0

* その他経費のうち、主なものは仲介料及び光熱費であります。

(注)

前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
原価計算の方法 (1) 電子機器は予定原価に基づく個別原価計算によっております。なお、予定原価と実際原価の差額は売上原価に 8,651千円、製品、仕掛品期末残高にそれぞれ318千円、3,971千円を配賦しております。 (2) 電子部品は予定原価に基づく総平均法による原価計算によっております。なお、予定原価と実際原価の差額は売上原価に 35,718千円、製品、仕掛品期末残高にそれぞれ217千円、1,669千円を配賦しております。 (3) 駐車場関連は実際原価に基づく総合原価計算によっております。	原価計算の方法 (1) 電子機器は予定原価に基づく個別原価計算によっております。なお、予定原価と実際原価の差額は売上原価に3,816千円、製品、仕掛品期末残高にそれぞれ2,872千円、8,398千円を配賦しております。 (2) 電子部品は予定原価に基づく総平均法による原価計算によっております。なお、予定原価と実際原価の差額は売上原価に 10,124千円、製品、仕掛品期末残高にそれぞれ 1,301千円、2,042千円を配賦しております。 (3) 同左

【株主資本等変動計算書】

(単位：千円)

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
株主資本		
資本金		
当期首残高	1,052,850	1,052,850
当期変動額		
当期変動額合計	-	-
当期末残高	1,052,850	1,052,850
利益剰余金		
利益準備金		
当期首残高	-	-
当期変動額		
利益準備金の積立	-	10,433
当期変動額合計	-	10,433
当期末残高	-	10,433
その他利益剰余金		
繰越利益剰余金		
当期首残高	372,311	186,914
当期変動額		
剰余金の配当	-	104,324
当期純利益	508,246	271,729
利益準備金の積立	-	10,433
土地再評価差額金の取崩	50,979	-
当期変動額合計	559,226	156,971
当期末残高	186,914	343,886
利益剰余金合計		
当期首残高	372,311	186,914
当期変動額		
剰余金の配当	-	104,324
当期純利益	508,246	271,729
利益準備金の積立	-	-
土地再評価差額金の取崩	50,979	-
当期変動額合計	559,226	167,404
当期末残高	186,914	354,319
自己株式		
当期首残高	3,498	3,609
当期変動額		
自己株式の取得	111	165
当期変動額合計	111	165
当期末残高	3,609	3,774

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
株主資本合計		
当期首残高	677,040	1,236,154
当期変動額		
剰余金の配当	-	104,324
当期純利益	508,246	271,729
土地再評価差額金の取崩	50,979	-
自己株式の取得	111	165
当期変動額合計	559,114	167,239
当期末残高	1,236,154	1,403,394
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金		
当期首残高	1,187	1,352
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	164	679
当期変動額合計	164	679
当期末残高	1,352	2,032
土地再評価差額金		
当期首残高	461,650	445,637
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	16,012	-
当期変動額合計	16,012	-
当期末残高	445,637	445,637
評価・換算差額等合計		
当期首残高	462,838	446,990
当期変動額		
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15,848	679
当期変動額合計	15,848	679
当期末残高	446,990	447,669
純資産合計		
当期首残高	1,139,878	1,683,144
当期変動額		
剰余金の配当	-	104,324
当期純利益	508,246	271,729
土地再評価差額金の取崩	50,979	-
自己株式の取得	111	165
株主資本以外の項目の当期変動額（純額）	15,848	679
当期変動額合計	543,266	167,919
当期末残高	1,683,144	1,851,064

【注記事項】

(重要な会計方針)

1 有価証券の評価基準及び評価方法

(1) 子会社株式

移動平均法による原価法

(2) その他有価証券

時価のあるもの

決算日の市場価格等に基づく時価法(評価差額は全部純資産直入法により処理し、売却原価は移動平均法により算定)

時価のないもの

移動平均法による原価法

2 たな卸資産の評価基準及び評価方法

評価基準は、原価法(収益性の低下による簿価切下げの方法)によっております。

(1) 製品

駐車場関連 主として個別法

電子機器 個別法

電子部品 総平均法

(2) 原材料

駐車場関連 主として最終仕入原価法

電子機器 移動平均法

電子部品 移動平均法

(3) 仕掛品

駐車場関連 主として個別法

電子機器 個別法

電子部品 総平均法

(4) 貯蔵品 最終仕入原価法

3 固定資産の減価償却の方法

(1) 有形固定資産(リース資産を除く)

定率法によっております。

ただし、平成10年4月1日以降取得した建物(東京本社建物附属設備の一部及び東京本社構築物を含む)については、定額法によっております。

なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物及び構築物 3年～39年

機械及び装置 2年～17年

工具、器具及び備品 2年～20年

(2) 無形固定資産(リース資産を除く)

定額法によっております。

ソフトウェア(自社利用目的)……5年(社内における利用可能期間)

(3) リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額をゼロとして算定する定額法によっております。

なお、所有権移転外ファイナンス・リース取引のうち、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の

ものについては、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっております。

4 外貨建の資産及び負債の本邦通貨への換算基準

外貨建金銭債権債務は、決算日の直物為替相場により円貨に換算し、換算差額は損益として処理しております。

5 引当金の計上基準

(1) 貸倒引当金

債権の貸倒れによる損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

(2) 製品保証引当金

販売済製品の補修の費用等に充てるため、過去の実績を勘案し、将来の発生見込額を計上しております。

(3) 役員退職慰労引当金

役員の退職慰労金の支給に充てるため、内規に基づく当事業年度末要支給額を計上しております。

6 のれんの償却方法及び償却期間

のれんの償却については、20年間の均等償却をおこなっております。

7 その他財務諸表作成のための基本となる重要な事項

(1) 消費税等の会計処理の方法

税抜方式によっております。

(2) 連結納税制度の適用

連結納税制度を適用しております。

(貸借対照表関係)

1 有形固定資産の減価償却累計額及び減損損失累計額は次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年 3月31日)	当事業年度 (平成25年 3月31日)
有形固定資産	3,709,617千円	3,804,954千円

2 土地の再評価

土地の再評価に関する法律(平成10年 3月31日公布法律第34号)に基づき、事業用の土地の再評価を行い、当該再評価差額に係る税金相当額を「再評価に係る繰延税金負債」として負債の部に計上し、これを控除した金額を「土地再評価差額金」として純資産の部に計上しております。

再評価の方法.....土地の再評価に関する法律施行令(平成10年 3月31日公布政令第119号)第2条第4号に定める「地価税法第16条に規定する地価税の課税価格の計算の基礎となる土地の価額を算定するために国税庁長官が定めて公表した方法により算出した価額」に基づき算出しております。

再評価を行った年月日.....平成13年 3月31日

	前事業年度 (平成24年 3月31日)	当事業年度 (平成25年 3月31日)
再評価を行った土地の期末における時価と再評価後の帳簿価額との差額	112,043千円	161,034千円

3 担保資産及び担保付債務

担保に供している資産は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年 3月31日)	当事業年度 (平成25年 3月31日)
現金及び預金	72,000千円	72,000千円
建物	1,344,832千円	1,213,167千円
土地	2,567,264千円	1,928,519千円
合計	3,984,096千円	3,213,686千円

担保付債務は、次のとおりであります。

	前事業年度 (平成24年 3月31日)	当事業年度 (平成25年 3月31日)
その他流動負債	39,120千円	39,120千円
短期借入金	795,200千円	72,000千円
1年内返済予定の長期借入金	343,158千円	200,196千円
長期借入金	1,935,977千円	2,049,321千円
受入保証金	316,260千円	277,140千円
合計	3,429,715千円	2,637,777千円

4 当社は適格退職年金制度を採用しておりましたが、平成13年 1月12日を基準日として、これを廃止し、基準日時点での退職金要支給額と年金資産の配分額との差額を退職日後 1年間据置10年間分割支払とすることとしたため、当該未払額を「未払退職金」として固定負債に計上しております。

5 期末日満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理をしております。

なお、当期末日が金融機関の休日であったため、次の期末日満期手形が期末残高に含まれております。

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
受取手形	1,455千円	8,712千円
支払手形	6,013千円	5,812千円

(損益計算書関係)

1 通常の販売目的で保有するたな卸資産の収益性の低下による簿価切下額

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
売上原価	17,357千円	14,406千円

2 一般管理費及び当期製造費用に含まれる研究開発費は、次のとおりであります。

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
一般管理費	13,161千円	13,573千円
当期製造費用	735千円	203千円
合計	13,896千円	13,776千円

3 他勘定振替高は、有形固定資産から期末製品たな卸高への振替高であります。

4 固定資産売却益

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
機械及び装置	1,125千円	— 千円
車両運搬具	— 千円	113千円
合計	1,125千円	113千円

5 収用補償金

前事業年度（自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日）

収用補償金は、東京本社所有土地の一部収用に伴い発生した土地売却益及び物件移転補償差益であります。

当事業年度（自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日）

該当事項はありません。

6 固定資産除却損

	前事業年度 (自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)	当事業年度 (自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)
建物	259千円	— 千円
構築物	3,563千円	4,525千円
機械及び装置	7,150千円	— 千円
車両運搬具	— 千円	50千円
工具、器具及び備品	1,821千円	2,920千円
合計	12,795千円	7,496千円

7 訴訟関連損失

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

訴訟に起因する和解金であります。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

訴訟に起因する和解金であります。

(株主資本等変動計算書関係)

前事業年度(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	11,947	979	—	12,926

(注)普通株式の増加979株は、単元未満株式の買取によるものであります。

当事業年度(自 平成24年4月1日 至 平成25年3月31日)

1 自己株式に関する事項

株式の種類	当事業年度期首	増加	減少	当事業年度末
普通株式(株)	12,926	993	—	13,919

(注)普通株式の増加993株は、単元未満株式の買取によるものであります。

(リース取引関係)

1 ファイナンス・リース取引

(借主側)

(1)所有権移転ファイナンス・リース取引

リース資産の内容

有形固定資産

東京本社の電子機器部品事業における什器備品であります。

リース資産の減価償却の方法

重要な会計方針「3 固定資産の減価償却の方法」に記載のとおりであります。

なお、リース取引開始日が平成20年3月31日以前の所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の賃貸借取引に係る方法に準じた会計処理によっており、その内容は次のとおりであります。

リース物件の取得価額相当額、減価償却累計額相当額及び減損損失累計額相当額及び期末残高相当額
 前事業年度(平成24年3月31日)

	機械及び装置	車両運搬具	工具、器具 及び備品	ソフトウェア	合計
取得価額相当額	1,200千円	28,698千円	20,034千円	1,355千円	51,288千円
減価償却累計額相当額及 び減損損失累計額相当額	1,200千円	20,071千円	14,628千円	1,355千円	37,255千円
期末残高相当額	— 千円	8,627千円	5,405千円	— 千円	14,033千円

当事業年度(平成25年3月31日)

	機械及び装置	車両運搬具	工具、器具 及び備品	ソフトウェア	合計
取得価額相当額	— 千円	— 千円	388千円	— 千円	388千円
減価償却累計額相当額	— 千円	— 千円	367千円	— 千円	367千円
期末残高相当額	— 千円	— 千円	21千円	— 千円	21千円

(注) 取得価額相当額は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

未経過リース料期末残高相当額等

未経過リース料期末残高相当額及びリース資産減損勘定期末残高

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当事業年度 (平成25年3月31日)
1年内	5,061千円	21千円
1年超	8,971千円	— 千円
合計	14,033千円	21千円
リース資産減損勘定期末残高	— 千円	— 千円

(注) 未経過リース料期末残高相当額の算定は、有形固定資産の期末残高等に占める未経過リース料期末残高の割合が低いため、支払利子込み法により算定しております。

支払リース料、減価償却費相当額、リ - ス資産減損勘定の取崩額及び減損損失

	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
支払リース料	8,729千円	1,326千円
減価償却費相当額	8,729千円	1,326千円
リ - ス資産減損勘定の取崩額	— 千円	— 千円
減損損失	— 千円	— 千円

減価償却費相当額の算定方法

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっております。

2 オペレーティング・リース取引

(借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
1 年内	3,403千円	1,005千円
1 年超	4,394千円	4,022千円
合計	7,797千円	5,028千円

(有価証券関係)

子会社株式で時価のあるものはありません。

(注) 市場価格がなく、時価を把握することが極めて困難と認められる子会社株式の貸借対照表計上額

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
子会社株式	329,994千円	329,994千円

(税効果会計関係)

1 繰延税金資産の発生的主要原因別の内訳

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
(繰延税金資産)		
たな卸資産評価損	74,476千円	76,921千円
減価償却費	10,518千円	10,145千円
減損損失	9,886千円	9,422千円
貸倒引当金	8,185千円	8,548千円
貸倒損失	4,289千円	4,289千円
役員退職慰労引当金	118,467千円	119,219千円
未払費用	13,690千円	17,945千円
長期未払金	53,776千円	46,577千円
その他	9,766千円	12,693千円
繰延税金資産小計	303,056千円	305,763千円
評価性引当額	276,672千円	279,386千円
繰延税金資産合計	26,384千円	26,376千円
(繰延税金負債)		
のれん	10,849千円	9,419千円
その他有価証券評価差額金	748千円	1,125千円
繰延税金負債合計	11,598千円	10,544千円
繰延税金資産の純額	14,786千円	15,832千円
再評価に係る繰延税金負債	246,776千円	246,776千円

2 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との差異の原因となった主な項目別の内訳

	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
法定実効税率	40.7%	38.0%
(調整)		
住民税均等割	0.5%	0.8%
交際費等永久に損金に 算入されない項目	0.3%	0.5%
評価性引当額の増減	23.0%	0.6%
のれん償却額	0.1%	0.2%
その他	1.6%	0.4%
税効果会計適用後の法人税等の 負担率	20.2%	39.3%

(企業結合等関係)

該当事項はありません。

(資産除去債務関係)

該当事項はありません。

(1 株当たり情報)

1 株当たり純資産額及び算定上の基礎並びに 1 株当たり当期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前事業年度 (平成24年 3 月31日)	当事業年度 (平成25年 3 月31日)
(1) 1 株当たり純資産額	209.73円	230.69円
(算定上の基礎)		
貸借対照表上の純資産の部の合計額(千円)	1,683,144	1,851,064
普通株式に係る期末の純資産額(千円)	1,683,144	1,851,064
普通株式の発行済株式数(株)	8,038,100	8,038,100
普通株式の自己株式数(株)	12,926	13,919
1 株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数(株)	8,025,174	8,024,181

項目	前事業年度 (自 平成23年 4 月 1 日 至 平成24年 3 月31日)	当事業年度 (自 平成24年 4 月 1 日 至 平成25年 3 月31日)
(2) 1 株当たり当期純利益金額	63.33円	33.86円
(算定上の基礎)		
当期純利益(千円)	508,246	271,729
普通株主に帰属しない金額 (千円)	—	—
普通株式に係る当期純利益 (千円)	508,246	271,729
普通株式の期中平均株式数(株)	8,025,498	8,024,518

(注) 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

【附属明細表】

【有価証券明細表】

有価証券の金額が資産の総額の100分の1以下であるため、財務諸表等規則第124条の規定により記載を省略しております。

【有形固定資産等明細表】

資産の種類	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (千円)	当期末残高 (千円)	当期末減価 償却累計額 又は償却累 計額(千円)	当期償却額 (千円)	差引当期末 残高(千円)
有形固定資産							
建物	3,507,308	21,900	1,044	3,528,164	1,734,901	90,943	1,793,263
構築物	309,584	25,828	16,058	319,354	223,655	20,873	95,699
機械及び装置	375,308	86,383	10,332	451,359	294,439	24,328	156,919
車両運搬具	10,010	731	1,521	9,220	8,263	596	957
工具、器具及び備品	1,709,879	91,453	98,636	1,702,696	1,442,103	46,210	260,593
土地	3,234,657	—	—	3,234,657	—	—	3,234,657
リース資産	71,460	—	—	71,460	50,022	14,292	21,438
建設仮勘定	23,329	52,294	73,858	1,765	—	—	1,765
有形固定資産計	9,241,537	278,591	201,451	9,318,677	3,753,384	197,244	5,565,293
無形固定資産							
のれん	—	—	—	39,114	12,685	2,114	26,429
ソフトウェア	—	—	—	11,412	11,036	1,459	375
その他	—	—	—	7,821	—	—	7,821
無形固定資産計	—	—	—	58,349	23,722	3,573	34,626
長期前払費用	1,711	—	1,711	—	—	400	—

(注) 1 当期増加額のうち主なものは次のとおりであります。

機械及び装置	アクア事業用設備	46,208千円
	駐車場管理設備	40,175千円
工具、器具及び備品	駐車場管理設備	87,978千円
建設仮勘定	アクア事業用設備	50,529千円

2 当期減少額のうち主なものは次のとおりであります。

工具、器具及び備品	工具金型	53,534千円
	駐車場管理設備	44,820千円

3 無形固定資産については、資産総額の1%以下のため「当期首残高」、「当期増加額」及び「当期減少額」の記載を省略しております。

【引当金明細表】

区分	当期首残高 (千円)	当期増加額 (千円)	当期減少額 (目的使用) (千円)	当期減少額 (その他) (千円)	当期末残高 (千円)
貸倒引当金	22,752	10,520	—	9,793	23,480
製品保証引当金	880	90	—	880	90
役員退職慰労引当金	332,400	2,110	—	—	334,510

(注) 1. 貸倒引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額であります。
 2. 製品保証引当金の「当期減少額(その他)」は、洗替による戻入額であります。

(2) 【主な資産及び負債の内容】

現金及び預金

区分	金額(千円)
現金	29,548
預金	
当座預金	80,925
普通預金	338,637
定期預金	102,354
定期積金	10,000
計	531,917
合計	561,466

受取手形

相手先別内訳

相手先名	金額(千円)
伊藤超短波㈱	18,116
浜松ホトニクス㈱	13,529
富久無線電機㈱	11,513
岡本無線電機㈱	7,640
北斗工業エンジニアリング㈱	5,880
その他	21,338
合計	78,017

期日別内訳

手形期日	金額(千円)
平成25年 3 月	8,712
同 年 4 月	17,060
同 年 5 月	17,142
同 年 6 月	19,008
同 年 7 月	16,093
合計	78,017

売掛金

相手先別内訳

相手先名	金額(千円)
富士急行(株)	31,500
住友電設(株)	30,047
阪神高速サービス(株)	29,568
(株)巧	12,001
興銀リ - ス(株)	11,686
その他	214,912
合計	329,715

売掛金の発生及び回収並びに滞留状況

当期首残高(千円) (A)	当期発生高(千円) (B)	当期回収高(千円) (C)	当期末残高(千円) (D)	回収率(%) $\frac{(C)}{(A) + (B)} \times 100$	滞留期間(日) $\frac{(A) + (D)}{2}$ $\frac{(B)}{365}$
323,925	2,864,322	2,858,532	329,715	89.66%	41.65

(注) 消費税等の会計処理は、税抜方式を採用しておりますが、上記金額には消費税等が含まれております。

商品及び製品

区分	金額(千円)
商品	
駐車場関連	30,210
計	30,210
製品	
駐車場関連	12,645
電子機器部品	36,287
その他	3,379
計	52,302
合計	82,513

仕掛品

区分	金額(千円)
駐車場関連	36,552
電子機器部品	32,258
合計	68,810

原材料及び貯蔵品

区分	金額(千円)
駐車場関連	68,714
電子機器部品	23,715
その他	1,539
合計	93,968

支払手形

相手先別内訳

相手先名	金額(千円)
(株)小林	11,156
小林クリエイト(株)	9,107
いづみ電機(株)	7,649
(有)垣内製作所	4,025
(株)上信樹脂	3,596
その他	35,211
合計	70,746

期日別内訳

手形期日	金額(千円)
平成25年3月	5,812
同 年4月	12,466
同 年5月	15,603
同 年6月	16,239
同 年7月	17,751
同 年8月以降	2,872
合計	70,746

買掛金

相手先別内訳

相手先名	金額(千円)
(有)西英工務店	61,250
(株)三松	15,094
トステム(株)	9,077
サインエフェクト(株)	6,900
日本プリメックス(株)	6,385
その他	140,528
合計	239,236

短期借入金

相手先名	金額(千円)
福岡市農業協同組合	72,000
合計	72,000

1年以内返済予定の長期借入金

相手先名	金額(千円)
(株)西日本シティ銀行	200,196
(株)みずほ銀行	161,000
合計	361,196

長期借入金

相手先名	金額(千円)
(株)西日本シティ銀行	2,049,321
(株)みずほ銀行	901,750
合計	2,951,071

受入保証金

相手先名	金額(千円)
(株)東武ストア	277,140
セコム(株)	15,204
エーザイ(株)	7,613
(株)パーカーコーポレーション	4,767
協和発酵キリン(株)	4,609
その他	135,277
合計	444,611

未払退職金

区分	金額(千円)
適格退職年金制度の廃止に伴う当社従業員に対する未払額	330,229
合計	330,229

(3) 【その他】

当社は、平成25年6月25日の取締役会決議に基づき、同日付で本社土地建物の不動産売買契約を締結いたしました。

譲渡の理由

当社は、経営資源の有効活用を目的として財務体質の強化を図るため、以下の資産を譲渡するものとあります。

譲渡資産の内容

所在地 東京都大田区大森西一丁目9番12号

概要 本社土地 2,958.29m²

本社建物 5,570.23m²

帳簿価額 1,361,189千円（平成25年3月31日現在）

譲渡価額 1,400,500千円

譲渡先の名称 株式会社モリモト

譲渡先との関係

譲渡先と当社との間には、資本関係、人的関係、取引関係、関連当事者として特記すべき事項はありません。

譲渡の日程

取締役会決議 平成25年6月25日

契約締結 平成25年6月25日

物品引渡 平成25年9月30日（予定）

第 6 【提出会社の株式事務の概要】

事業年度	4月1日から3月31日まで
定時株主総会	6月中
基準日	3月31日
剰余金の配当の基準日	9月30日、3月31日
1単元の株式数	1,000株
単元未満株式の買取り	
取扱場所	(特別口座) みずほ信託銀行株式会社 本店及び全国各支店 みずほ証券株式会社 本店及び全国各支店
株主名簿管理人	(特別口座) 東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
取次所	—
買取手数料	株式の売買の委託に係る手数料相当額として別途定める金額
公告掲載方法	当会社の公告は、電子公告により行う。ただし、電子公告によることができない事故その他やむを得ない事由が発生したときは、日本経済新聞に掲載する。 なお、電子公告は当会社のホ－ムペ－ジに掲載しており、そのアドレスは次のとおりです。 http://www.technical-e.co.jp
株主に対する特典	なし

(注) 当会社の株主は、その有する単元未満株式について、次に掲げる権利以外の権利を行使することができません。

- (1) 会社法第189条第2項各号に掲げる権利
- (2) 会社法第166条第1項の規定による請求をする権利
- (3) 株主の有する株式数に応じて募集株式の割り当ておよび募集新株予約権の割り当てを受ける権利

第 7 【提出会社の参考情報】

1 【提出会社の親会社等の情報】

当社には、金融商品取引法第24条の7第1項に規定する親会社等はありません。

2 【その他の参考情報】

当事業年度の開始日から有価証券報告書提出日までの間に、次の書類を提出しております。

(1) 有価証券報告書及びその添付書類、有価証券報告書の確認書

事業年度 第72期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)平成24年6月27日関東財務局長に提出

(2) 内部統制報告書

事業年度 第72期(自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日)平成24年6月27日関東財務局長に提出

(3) 四半期報告書、四半期報告書の確認書

第73期第1四半期(自 平成24年4月1日 至 平成24年6月30日)平成24年8月10日関東財務局長に提出

第73期第2四半期(自 平成24年7月1日 至 平成24年9月30日)平成24年11月13日関東財務局長に提出

第73期第3四半期(自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日)平成25年2月13日関東財務局長に提出

(4) 臨時報告書

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第9号の2（株主総会における議決権行使の結果）の規定に基づく臨時報告書を平成24年6月29日関東財務局長に提出

金融商品取引法第24条の5第4項及び企業内容等の開示に関する内閣府令第19条第2項第19号（財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に著しい影響を与える事象の発生）の規定に基づく臨時報告書を平成25年6月25日関東財務局長に提出

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の監査報告書及び内部統制監査報告書

平成25年 6 月20日

テクニカル電子株式会社

取締役会 御中

監査法人啓和会計事務所

指定社員

公認会計士 森 脇 淳

業務執行社員

指定社員

公認会計士 嶋 矢 剛

業務執行役員

< 財務諸表監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているテクニカル電子株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの連結会計年度の連結財務諸表、すなわち、連結貸借対照表、連結損益計算書、連結包括利益計算書、連結株主資本等変動計算書、連結キャッシュ・フロー計算書、連結財務諸表作成のための基本となる重要な事項、その他の注記及び連結附属明細表について監査を行った。

連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から連結財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に連結財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、連結財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による連結財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、連結財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての連結財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、テクニカル電子株式会社及び連結子会社の平成25年3月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する連結会計年度の経営成績及びキャッシュ・フローの状況をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

< 内部統制監査 >

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第2項の規定に基づく監査証明を行うため、テクニカル電子株式会社の平成25年3月31日現在の内部統制報告書について監査を行った。

内部統制報告書に対する経営者の責任

経営者の責任は、財務報告に係る内部統制を整備及び運用し、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して内部統制報告書を作成し適正に表示することにある。

なお、財務報告に係る内部統制により財務報告の虚偽の記載を完全には防止又は発見することができない可能性がある。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した内部統制監査に基づいて、独立の立場から内部統制報告書に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の監査の基準に準拠して内部統制監査を行った。財務報告に係る内部統制の監査の基準は、当監査法人に内部統制報告書に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき内部統制監査を実施することを求めている。

内部統制監査においては、内部統制報告書における財務報告に係る内部統制の評価結果について監査証拠を入手するための手続が実施される。内部統制監査の監査手続は、当監査法人の判断により、財務報告の信頼性に及ぼす影響の重要性に基づいて選択及び適用される。また、内部統制監査には、財務報告に係る内部統制の評価範囲、評価手続及び評価結果について経営者が行った記載を含め、全体としての内部統制報告書の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、テクニカル電子株式会社が平成25年3月31日現在の財務報告に係る内部統制は有効であると表示した上記の内部統制報告書が、我が国において一般に公正妥当と認められる財務報告に係る内部統制の評価の基準に準拠して、財務報告に係る内部統制の評価結果について、すべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
 - 2 連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。

独立監査人の監査報告書

平成25年 6 月20日

テクニカル電子株式会社

取締役会 御中

監査法人啓和会計事務所

指定社員
業務執行社員 公認会計士 森 脇 淳

指定社員
業務執行社員 公認会計士 嶋 矢 剛

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づく監査証明を行うため、「経理の状況」に掲げられているテクニカル電子株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第73期事業年度の財務諸表、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書、重要な会計方針、その他の注記及び附属明細表について監査を行った。

財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した監査に基づいて、独立の立場から財務諸表に対する意見を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準は、当監査法人に財務諸表に重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得るために、監査計画を策定し、これに基づき監査を実施することを求めている。

監査においては、財務諸表の金額及び開示について監査証拠を入手するための手続が実施される。監査手続は、当監査法人の判断により、不正又は誤謬による財務諸表の重要な虚偽表示のリスクの評価に基づいて選択及び適用される。財務諸表監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、当監査法人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、財務諸表の作成と適正な表示に関連する内部統制を検討する。また、監査には、経営者が採用した会計方針及びその適用方法並びに経営者によって行われた見積りの評価も含め全体としての財務諸表の表示を検討することが含まれる。

当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

監査意見

当監査法人は、上記の財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、テクニカル電子株式会社の平成25年3月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する事業年度の経営成績をすべての重要な点において適正に表示しているものと認める。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

- 1 上記は、監査報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(有価証券報告書提出会社)が別途保管しております。
- 2 財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。